

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

池田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）	
	交付金	補助金										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費	
地域自主防災・防災体制強化事業	1,820	262 1,558	自主防災・防災組織への資機材配備、自主防災・防災組織を中心とした合同防災訓練を実施し、防災体制の強化を図る。	・校区内18自治会・町会のうち16の自治会・町内会により13自主防災会が組織化、設立される。 ・うち10自主防災会への資機材配備が完了。	・今年度新たに設立された綾羽1丁目自主防災会に1次資機材配備を行った。城山、菅原自主防災会への配備は終了した。 ・13自主防災連絡会が主催し、防災フェスティバルを実施。	・池小校区自主防災会・連絡会（13自主防災会が参加）が中心となり新たな試みの防災訓練が実施された。 ・西本町町会に防災会設立の機運が認められる。	・若い世代の参加増を図る目的で、新たな試みで防災フェスティバルを実施し、こども、母親の参加増で初期の目的は達成した。又後日13防災会の会員にアンケートを実施した結果、是(70%)非(30%)であった。しかし当協議会・安全安心のまち部会員からは否定的な意見も出ているので実施内容については検討の余地があると思われる。 ・災害発生時24時間常在中の中学生を交えた訓練の検討も必要では・・・。			自主防災組織が合同で防災フェスティバルとして参加者増加のための試みるなど、地域の防災活動大きく貢献したことを評価する。万が一災害が発生した時に有効活用できることなどを期待する。	危機管理課 災害対策費/ 自治振興費	
防犯カメラ維持管理事業	50	9 41	安全で安心な暮らしの実現に向け、防犯カメラの補修を行い、経年劣化を抑え、対応年数の延長を図る。	・辻が池公園に平成26年11月に防犯カメラ2台を設置。	・平成28年3月10日に点検を実施した。東南出入口の1台の不具合を確認。	・点検に依り不具合が改修された。	・雷等の自然条件による破損（SDRカード）は目視等では確認出来ないため点検回数を増やす必要があると思われる。但し、費用（約40,000円/回）が掛かるので規約などを変更し簡易に点検出来るよう検討の要あり。				危機管理課 自治振興費	
辻が池公園整備事業	450	450	平成25年度に実施した辻ヶ池公園のヒメワダレソウの整備について範囲拡大を行う。	多くのお子様が集まる公園ですが、土の為、土埃の飛散が多く、見た目もよくない。	土埃の飛散が軽減され、景観もよくなった。	夏場は緑が広がり、そのうえで弁当を食べる家族を多く見かけるようになりました。また、草の上に寝転がる子どもたちもおり、今まで以上に雰囲気の良い公園になりました。	基本的には強い草ではありますが冬場は枯れてしまいます。その時に土を掘るなどの行為があれば完全に根が失われる場合があるので注意書き等が必要になる可能性がある				みずとみどりの課 公園費	
道路安全対策事業	1,116	1,116	池田市の観光資源である城跡公園・阪急文庫・逸翁美術館等へのメインルートを中心に歩けるようグリーンベルトを設ける。	大型観光バスの駐車場が新設されバスの出入りや交通量が多い場所であるのかかわらず、歩道が無く大変危険であった。	グリーンベルトを舗装する事により、ドライバーや歩行者に車歩道区別をしていただき、安心して通行して頂ける道路になりました。	ドライバー歩行者それぞれの通行区分が明確になり、安心して通行できるようになり事故の抑止となっています	経年劣化による舗装のメンテナンスが必要である 舗装区分の延長も必要である				道路課 道路維持費	
地域コミュニティ紙等発行事業	444	444	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	継続事業としている。	毎年の継続・新規事業の内容がひと目でわかり好評である 各町会の活動状況がわかり、参考になる。	・身近なニュースソースを取り上げることによって地域の人々の関心を高めている。 ・地域コミュニティの活動状況がわかり、少しずつでも認知度があがってきている。					地域分権・協働課 自治振興費	
池田地域コミュニティ推進協議会事務所運営推進事業	932	932	協議会活動を円滑に行うため、事務作業の支援を行うほか、地域住民への啓発及び情報発信を行う。	・市立池田会館内に設置(平成23年度から) ・専属女性事務員1名、男性会員3名(輪番駐在制)で運営。	・継続運営中	・本協議会内が一元化され問題の発生が少なくなった。	・後継者探し(輪番駐在者) ・所存する池田会館の再編問題が浮上している。 ・情報の中継所(各部会への発信)としての機能の強化。				地域分権・協働課 自治振興費	
「ちいさな絵本館」推進事業	1,400	1,400	絵本の読み聞かせを通して地域住民の世代間交流を推進する。一層の内容の充実(蔵書・イベント・情報発信等)を図り、こどもたちの豊かな成長を応援する。	創立6年目を迎え、スタッフも一丸となって運営に携わっている。継続事業として年間スケジュールに基づき、ミニお話し会、年3回開催のイベントや11月の文化ラリーへの参加などを通じて地域の子育て支援が継続してされている。	前年度に増して地域の子育て世代への浸透を図り、絵本の読み聞かせや、お話し会の実施により、スタッフと利用者間の交流が深まってきている。また、ホームページの充実により利用者及びスタッフが絵本館についての情報をすぐに得ることができ、より親しみを持てるようになった。	スタッフの細やかな工夫により、子育て世代への快適な空間を提供できている。ホームページでこまめに絵本館の様子を掲載することにより、利用者には絵本館をより身近なものに感じてもらえるようになり、また『クレハ』(地域情報誌)への掲載(添付資料参照)により、より広い地域にこの活動を知らせることができた。蔵書はさらに充実しており、貸出数の増加を見ても利用者の満足度を高められていると考えられる。	開館日を増やす、あるいは開館時間をのびすなど、地域の人たちがさらに利用しやすい状況を作りたいと思うが、現状では、今以上の開館時間延長は難しい。現在の利用者は母親と未就学の子どもがほとんどであるが、それ以外の人たちがもっと出入りできるような工夫もしていきたい。				各部会毎で評価(客観的な指標も用いた)協議会役員会で最終照査してまとめを行った。	子育て支援課 自治振興費
池田小学校植栽整備事業	90	90	池田小学校140周年を記念して、校歌の歌詞にも登場する姫小松を校庭に植樹。	池田小学校の過年度における校舍耐震工事に伴い姫小松等の樹木が撤去された。この現状を受け卒業生を中心とした地域・学校関係者より校歌の歌詞に登場している「姫小松」植栽の要望が寄せられていた。	池田小学校正門の正面に設置されている「登龍門」の右隣に寄贈品の「姫小松」を植栽した。	池田小学校の象徴として「登龍門」「姫小松」双方の存在感がより増大した。平成27年4月の入学式や平成28年3月の卒業式後における記念撮影場所としても利用され、多くの児童にとって印象深い場所となった。	・年間を通して葉刈り等のメンテナンスや児童による植栽場所付近の清掃を心がける。 ・校歌の歌詞にあるもう一つの樹木(若松)の植栽を働きかける。				管理部総務・学務課 自治振興費	
MTPフェスティバル支援事業	588	588	中学校関係者が中心となって進める住民交流の事業を支援する。夏と秋の2回、地域の子どもから大人までが楽しめる催しを開催する。	日程調整などで少し難航した為、取り組み、準備等遅れてしまった。開催チラシの枚数が少なく、市役所広報誌には折込みしたが、幼稚園・保育所・学校等子ども達に配布できなかった。当日の保護者・子ども達・先生方の参加が少なかった。	本年度は池田学園ジョイントコンサートと同日に開催し、模擬店では、単位PTA保護者間の交流ができました。子どものお手伝いは少し減りましたが、池田中学校生徒・関大生・地域の方々に盛り上げて頂きました。平和の集いでは、地域コミュニティのPR活動を報告することができました。	第8回目を迎え知名度は上がり、活動を応援して下さる方が増えた事で、このフェスティバルが、いけだ学園MTPと地域との繋がりを大事にしている活動であることをPRすることができました。平和の集いにおいては、たくさんの子どもの笑顔が見れて、たいへんうれしく思いました。	本来なら池田中学校や駅前公園で行うのが望ましいですが、利便上、池田小学校での開催が多いため、負担をかけているので、いろんな面で考慮が必要であると考えられます。クラブや授業で忙しく、先生方や子どもたちの参加が少ない。保護者のお手伝いも少ないように思われるので、多くの方が参加していただけるよう開催時期等の検討が必要である。				教育政策課 自治振興費	

新たに防災フェスティバルを開催されるなど、自主防災体制がさらに強化されているものと評価。事務所やちいさな絵本館といった施設の運営面において、人手不足が問題化しつつあると感じられる。今後も事業継続していただけるよう、協議会の体制強化が課題の一つと考える。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

キッズランド支援事業	106	補助金 106	池田小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	・可搬式の「整理カゴ」が経年劣化し使用に耐えない状況。	・屋外ボール整理カゴ(キャスター付) 2台を購入。	・高齢化した見守り人の負担が軽減されると共に、子どもたちも安全に協働できている。	・子どもたちに大切に使用するよう、使用後の整備等を通じて指導していく。		キッズランドで使用する屋外ボール用の整理カゴを購入したことにより、ボールの整理及び片付け等をスムーズに行うことができ、高齢化した安全管理員の負担を軽減することができた。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金 350	校区実行委員会が主となり毎年、小学校運動場を会場としてコミュニケーションの拡充とスポーツ意識の向上に伴う健康づくりを目指す。	・継続して実施している。	・早朝まで雨が残る悪環境にもかかわらず例年通りの参加(約1200人)があった。	・地域のつながりの強化。 ・他地域の人達との交流。	地域によってこどもの数が極端に減少しているのでグループ分け及び演目について検討の要あり。		事業の実施により、地域スポーツの振興が図ることが出来た。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	7,446		事業提案限度額 7,673千円	次年度繰越金額 227千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

秦野地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
		説明									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
地域掲示板設置事業	503	修繕料 503	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	まだ地域掲示板のない地域があり、地域コミュニティの活動内容や情報の共有ができなかった。	掲示板を設置することにより空白地域にもコミュニティの活動内容や地域団体の情報を共有ができるようになった。	地域コミュニティの活動内容・地域団体の情報をより多くの地域住民に知らせることができた。	掲示板のない地域からの要望があるため引き続き掲示板設置をしていく。			自治会との連携にも寄与しているものと認識。今後掲示の基準等の明確が必要。	地域分権・協働課 自治振興費
コミュニティ倉庫設置事業	611	修繕料 611	渋谷会館敷地内に倉庫を設置、イベント備品を保管し、イベント準備の円滑化を図る。	倉庫が渋谷会館の2Fにあったため、重いテナントや机などの備品の出し入れが重労働だった。	倉庫を渋谷会館の敷地内1Fに設置することができ、多くの備品は収納することができた。	軽トラックを横付けすることができるようになったので、出し入れが簡易になり負担が軽減された。	まだ備品が収納しきれず、2Fにある備品もあるので、今後検討が必要となる。			ますます地域イベントに活用されるよう期待する。	地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ設置維持管理事業	2,040	修繕料 2,000 電気使用料 40	安全で安心な暮らしの実現に向け、防犯カメラを設置する。	交差点での事故・事件に関する情報収集の手段がなかった。	交差点での情報収集ができるようになった。	防犯カメラがあることにより、事件の抑止効果が期待できる。また、事故があった時に客観的な情報源になっている。	監視地域のカバー率がUPしたが、まだカバーできていない地域が3割ほどある。下渋谷の交差点と上渋谷の交差点については今後の課題である。			地域の危険箇所へ防犯カメラを設置することにより、犯罪の発生を未然に防ぐ効果を期待する。また継続的経費について理解し、設置場所について十分の議論・調整の上、提案を期待する。	危機管理課 自治振興費
AED管理事業	33	消耗品費 33	地域内の各会館に設置したAEDについて定められた消耗品の交換をし、突然の疾病や事故に備えるため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	4会館（上渋谷・下渋谷・畑・南畑）に設置したAEDは備品を適切に維持管理されている。	必要な備品交換を行った。	必要な拠点にAEDが設置されており、住民の安全安心な生活に貢献している。	AEDは引き続き適切に管理していくが、救命講習会などを通じて、より一層の安全意識の向上に努めていく必要がある。			共同利用施設等に設置することにより、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
地域コミュニティ紙等発行事業	500	補助金 500	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	年3回発行の「秦野まちづくりだより」を写真を多くして見やすいものにし、行事にはより広くわかりやすく記事内容の充実を努めた。	年3回の発行に加え認知度調査の号外号を発行して協議会の内容をよりわかりやすく伝えた。	号外号を1枚もので発行したことにより回答率も高まっているので関心も増えている。地域の内容を写真も使い、より詳しく伝えることで地域内の活性化につながっている。	まだ活動のPRが足りない。地域住民とのコミュニケーションが必要である。協議会の会員の募集も含め、啓もう活動に努めたい。			アイディア募集や調査を実施するなど、活動のPRにむけ、工夫いただいているものと評価する。	地域分権・協働課 自治振興費
地域ギャラリー維持管理事業	100	補助金 100	コミュニティ事業の情報発信、地域住民の作品を掲載、地域行事等の広報を行うためギャラリー掲示板の維持管理を行う。	二週間に1度の入替を1か月に1度の入替に変更した。地域の催しも写真なども使い紹介した。幼稚園の作品も継続的になってきた。	地域事業の発信・住民の作品展示・地域イベントの写真などを多く展示し、広報活動に努めた。幼稚園、こども会などの展示も多くなっている。	毎年、新しい作品が増えている。認知度がよりアップしている。通行人の方にもよく見ていただいている。	作品集めはまだ必要。今後も根気強く広報活動を続けていきたい。			協議会員の負担が大きいかと思うが、工夫しながら継続されるよう期待する。	地域分権・協働課 自治振興費
校区盆踊り大会事業	230	補助金 230	スポーツ振興会と子供会等の共同開催である盆踊りを支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会・子ども会等で開催している。	コミュニティ意識の高揚をはかる。	備品などで共同開催を支援しており、参加人数も増加している。	備品を備え、スポーツ振興会・子ども会への支援が充実したと思われる。	今後は、古くなった備品を順次交換する必要がある。耐震工事により小学校のグラウンドの使用面積が狭いためにレイアウトに一考の必要がある。		事業概要に基づき、適正に予算執行されている。	観光・ふれあい課 自治振興費
地域イベント活性推進事業	818	補助金 818	地域の交流と地域活性化を図るため、フリーマーケット及び地域活動を推進・支援していく。	あおぞらdelはたのフェスタを秦野小学校でおこなうことにより参加・出店人数が増えた。地域の盆踊りなどで使用する設備が不十分だった。	秦野小学校耐震工事のためあおぞらdelはたのフェスタは渋谷中学校で行った。地域の盆踊りで使用する電源盤・分電盤延長工事を行った。紅白幕・かき水器などの備品を購入した。	あおぞらdelはたのフェスタを渋谷中学校でおこなったことにより協議会の認知度が高まった。工事・備品購入により、地域行事の円滑な活動に寄与している。	あおぞらdelはたのフェスタを渋谷中学校で行うことについて、さらなる広報が必要である。今後も地域活動に必要な備品の充実化に向けていきたい。			事業概要に基づき、適正に予算執行されている。	観光・ふれあい課 自治振興費
秦野地域花いっぱい運動支援事業	80	補助金 80	地域と学校と一緒に花を育て緑化を進め笑顔のあふれる地域にしていこう。	今回で3回目の事業。渋谷中学校・地域の各団体と連携して行った。	保護者・保護者OB・教職員・地域の方々が参加し、17回の活動を行い、菊づくりを中心に草花（ストレストカーパス・パンジー）の栽培に対して支援した。苗・土・肥料・鉢・プランターの他にスコップなどの用具も揃えることができた。	咲いた菊を中学校の文化祭で展示することにより来訪者を和ませた。あおぞらdelはたのフェスタでも展示・販売を行い、認知度は高まっている。また各会館にも分けて喜ばれた。	今後も継続的に支援していきたい。			今後も地域と学校が自然を通じて、ふれあいの場を広げていくことに期待する。	環境をまもる課 自治振興費
自然学習講習会・昆虫育成事業	100	補助金 100	地域特有の自然と触れあい、自然を学び、幼虫育成により親子のふれあいの場を提供する。	カブト虫養育場の幼虫掘りは実施時期が遅かったため、大人だけで前もって行ったため、子供たちにその感動は伝えられなかったが、幼虫の成長を見てもらうことができた。	五月山へのハイキング、自然学習講習会、カブト虫養育場での幼虫掘り起し、腐葉土の入替を行った。	五月山へのハイキングを行ったことにより日頃運動不足の子供たちへの影響大。幼虫を掘り起こすことで自然の営みを感じてもらえた。養育場の土の入替をすることにより、土壌の清潔さが保たれる。	次年度は9月に観察日記を回収し、成虫を放つ事業を遂行したい。			毎年実施している恒例行事である。カブトムシを通じ、子ども達の自然学習の良い機会になっている。	みずとみどりの課 自治振興費
交通安全対策事業	146	補助金 146	現在設置されている飛び出し坊や看板を改修し、地域内交差点を安全に歩行できるようにする。	飛び出し坊や設置から年月が経っており、劣化しているものが多かった。	飛び出し坊やすべてをきれいなものに入れ替えた。	きれいなものに替えたことにより、交差点などでよりわかりやすくなり、地域住民の目に留まるため、きをつけるようになっていく。	劣化しているものを早めに入れ替えていきたい。			自動車運転者に対する注意喚起となり、歩行者の安全につながった。	交通・総務課 自治振興費
秦野地域うたいっぱい運動支援事業	220	補助金 220	秦野小学校区の子どものための聖歌隊が町の中を練り歩き、秦野小学校でコンサートを実施、歌うことにより学年を越えて友情の絆を深め、地域内の交流を深める。	地域住民すべてに参加してもらえる事業がなかったため交流をはかることがむずかかった。	公募で集まった老若男女の団員が地域をキャロリングして小学校の体育館でミニコンサートをを行い、地域交流を図った。	地域の方々はキャロリング途中2カ所で止まって歌うところで待っていて聞いていただき、小学校の体育館では椅子を補充しなくてはいけないくらい人が集まった。地域住民相互の交流が深まった。	キャロリング中止まって歌う場所を精査する必要がある。歌うことによりみんなを笑顔にできるよう、今後も継続して支援していきたい。			公募で集まった様々な世代の団員が「うた」を通して地域を歩き、住民と交流を深めることができた。また、小学校の体育館でミニコンサートを行い、多くの住民が来場し、住民同士がふれ合う良い場となった。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費

新規事業である「うたいっぱい運動」やカブト虫の育成など、子どもを対象とした事業が充実しているものと評価。地域内でのバランス・公平性を考慮しながら、さらなる発展に期待する。

各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

キッズランド支援事業	20	補助金	20	秦野小学校で開設された「秦っ子キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	キッズランドでの文具等がまだまだ足りない。古くなったものの入れ替えができない。	文具等が増えた。	遊びの幅が広がり、楽しんで過ごしている。	まだまだ文具等が足りないし古くなっているので、継続的に支援する必要がある。		キッズランドで使用 する文具等を補充し たことにより、幅広 い活動が可能とな り、活動のさらなる 充実につながって いる。 有効な事業として評 価できる。	教育センター 自治振興費
地域内子ども会等活動支援事業	480	補助金	480	校区内で子ども会の育成を行い、協議会と子ども会が協働して取組を行う。	団旗が古く破れているところもあった。学校行事で歴史に触れることが少なかった。	団旗がきれいになった。姫路城見学で歴史の勉強をすることができた。子ども会全体でいちご狩りをした。	歴史の勉強ができたことはよかったしいちご狩りをして子ども会相互の知識の共有を図り親交を深めることができた。	バス代、入場券の高騰に対応して引き続き支援していきたい。		普段の子ども会活動では経験できない行事により、校区の子ども会の交流が深まり、子どもたちにとって有意義な体験活動となった。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金	200	地域のスポーツ振興会と子供会等の地域団体が開催する事業を支援する。						事業の実施により、地域スポーツの振興が図ることが出来た。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	6,181			事業提案限度額 6,961千円	次年度繰越金額 780千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

北豊島地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									地域分権・協働課 自治振興費
地域掲示板設置事業	500	修繕料 500	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	今回予定の設置場所は豊島北区で地域コミュニティの行事、事業等は地区福祉の看板を借用していたが小型で掲示に困難、不便を強いられていた。	地域の行事、コミュニティの行事等を地域住民に告知することが出来るようになり、コミュニティの事業等に関心を持つ人が増してきた。	掲示板を見て行事に参加したという地域住民が増加した。	校区の中でも少し離れた場所に住む人々に行事等を知っていただく為、離れた場所こそ必要を感じるが設置場所、管理の問題が残る。			地域内の広報に寄与しているものと認識。今後、掲示の基準等の整備も必要と考える。	地域分権・協働課 自治振興費
きたてしまプラザ活用事業	3,640	修繕料 1,100 補助金 2,540	地域住民相互の交流の拠点として住民対象の文化教養教室、子育て支援活動を行う。また、機械室を整備し憩いの場喫茶コーナーの設置準備を行う。	コミュニティ推進協議会の拠点、又、各種文化教室開催場所として十分に活用されています。又、個別空調方式に変更したのでセントラル空調室が無用となりましたが壁面にアスベスト、大型空調機が設置された状態で入室禁止状態であった。（利用者及び参加者 1,387回 16,554人 教室268回 5,394人）	今後も積極的に利用していただき効率的な活用に努めます。市の予算でアスベスト除去、大型空調機の撤出、廃却完了	他の協議会からも注目され、地域住民にも認知され、利用者も多くなってきております。元空調室に出入りが可能となり、地域で利用される部屋としていきたい。	今後も多くの地域住民に利用される協議会拠点として運営していきたい。改装費の関係で数年かかるが近い時期に高齢者、地域の方々が気軽に利用できる喫茶室等？を設置したい。			北豊島地域の拠点として、地域住民の活動に積極的に活用されている。また、ソーラーパネル設置やアスベスト除去など、環境面でも整備が進んでいる。	総務課 財産管理費/ 自治振興費
AED管理事業	51	消耗品費 51	使用期限が切れるパッド、バッテリーの交換を行う。	AED機器については有効、且、必要な機器であるが緊急使用時誤作動ないように部品使用期限が来た部品交換必要性があった。	高齢者等利用の多い、各会館に設置している。利用されている地域住民の安心器材として実物を見ることが出来、安心意識も高まっている。	設置場所を知り、現物を目にする事が出来るようになり安心感がある。	設置されているが使用すると不安が残る。今の所屋内に設置されているが実際は屋外に設置されていることが望ましいと思う。使い方の講習等も定期的にする必要がある。			共同利用施設等に配置することにより、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
公園花いっぱい整備事業	1,280	修繕料 1,200 補助金 80	地域の子ども達が安全に遊べる場の提供として、花壇を作り花を育て、また、太陽光発電LED照明を設置し、地域住民の憩いの場とする。	地域の高齢者休憩所、幼い子供たちの遊び場、若いお母さんへの憩いの場を提供しており、環境維持が必要である。北小校区の公園2ヶ所を調査し、現行照明（水銀灯・蛍光灯）に環境への取組の必要性を感じ、＜ソーラー＋LED照明＞を（立地・規模・利用度）より設置個所のプライオリティを付け、豊島野公園（池田市ソーラー第一号機）⇒荘園1丁目第2公園と順次設置。住吉地区の中心公園へ120w相当街路灯の導入を計画。	6/14, 11/29の2回実施。園芸高校の先生/生徒さんの指導の下、地域住民の皆さんと花壇に季節にあった草花を植替し憩いの場として維持管理を実施。ヨシズの交換はノウゼンカズラが日陰を作ってくれましたので今年度から廃止しました。設置場所…北轟木公園西側中央28w/31w（水銀灯120w相当）を6月に設置。「自然エネルギー」に対するコミュニティ協議会取組、太陽光エネルギー導入推進への牽引役となる。公園全体が明るく防犯にも役立つと考え。設置費用120万円	地域住民の参加により季節に合った花を植える、觀賞することによって人の心に潤いを与え、子供たちが安心して遊べる安全で清潔な公園と喜ばれている。地元に対する「見える化」を実践・設置後の環境変化・自然エネルギーへの取組を認識・個人への省エネ導入促進・看板設置 広報誌によるPR コミュニティ協議会の活動に興味を持ってもらえる様になる。	年2回の花植え実施に今後も園芸高校に応援を依頼し、花壇の維持管理を行っていく。費用対効果を考えた設置場所の選定。設置場所近隣住民への事前説明実施（明るさ・ノイズ・安全性等）トラブルの回避。			北轟木公園にLED照明を設置する事により、地域住民が安心して利用できる公園になっている。また、豊島北2丁目公園では公園内の花壇の手入れ・管理を園芸高校と協働で実施しており、学生との交流の場としても活用されている。	みずとみどりの課 公園費/ 自治振興費
街路灯強化事業	443	電気使用料 15 修繕料 428	安全・安心なまちづくりの一環として防犯対策強化を目的に街路灯を整備する。	地域住民からの申し出もあり、街路灯が不十分で防犯上気になる箇所があった。	街路灯の設置により、防犯上、明るくより安全になった。	街路灯設置により夜間も明るく通行ができ、防犯上も安全になったと地域住民からも喜ばれている。	今後も地域から要望等もお聞きし、設置必要のある場所については年次ごとに提案設置を進めていきたい。			街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全が図られている。	道路課 交通対策費
道路安全対策事業	1,400	修繕料 1,400	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	北小校区周辺道路で通学時の安全、安心確保が保持できていない。	北小児童通学路（北側 70m）の路側にグリーン塗装をした。	通学路の路側にグリーン塗装をすることによって児童、車両運転者ともに注意を喚起することが出来た。	地域における登下校の児童の安全確保はもちろんですがこれから迎える高齢者社会、ハンデキャップのある人への対策として安全柵や交差点表示や点字ブロックの設置も考えていきたい。			歩行者に通行帯確保による安全意識の向上及び通行車両への運転マナーの向上へ一定の効果が有ったと考える。	道路課 道路維持費
地域コミュニティ紙等発行事業	600	補助金 600	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	これまでと同様に隔月に広報紙を発行し、地域住民との情報交換の媒体とする事を目的にしました。（5回/年間）	平成27年度も目標通り隔月に広報紙を発行することが出来ました。	地域のコミュニティ紙として親しまれて、定着していると思います。	推進協議会からの広報紙としての側面のみならず、住民からの投稿が掲載できる様、努力していきます。			これまでの発行頻度を維持しながら、写真も多く使い、見やすい紙面づくりをされているものと評価する。	地域分権・協働課 自治振興費
きたてしまプラザまつり事業	30	補助金 30	協議会の活動状況を年に1回、地域住民に広くPRすることを目的として祭典を開催する。	協議会活動拠点施設又は協議会主催教室（教養・文化活動）活動発表の場として1年間の活動状況を披露している。	発表内容を工夫し、誰でもが参加できる祭典にした。	協議会の活動状況、開催教室内容、地域住民、参加者の理解度を増すことが出来た。	協議会活動内容、文化教室の活動内容等マンネリ化しない様に新しい工夫をしていきたい。			事業概要に基づき、適正に予算執行されている。	観光・ふれあい課 自治振興費
地域行事活動促進事業	75	補助金 75	校区盆踊り大会と地域内行事の支援を行う。	日本の伝統行事のまつり、盆踊り等住民のコミュニティが希薄になっている昨今、住民の対話活性を図るべきである。	まつり、盆踊り等、人口の減少、高齢化に伴い資金面で取りやめる所もあったが助成金を出すことで住民対話も高まり少しずつであるが活気ある行事が行われるようになった。	地域の行事に参加者も増え、明るく、より良い街づくりができると思う。	地域、場所により条件の違う状態にあると思うのでそれぞれの助成金先の意見等聞きより良い方向に配慮する必要があると感じる。			幅広い分野の事業を展開していただいております。活発に活動いただいていると評価。中でもきたてしまプラザの存在は大きく、本年度アスベスト除去も完了し、今後さらなる地域の拠点機能の充実に期待したい。	観光・ふれあい課 自治振興費
サイクル&エコカーニバル運営事業	15	補助金 15	サイクル&エコカーニバルの活発化を図る。	毎年、宣真高校にて交通・環境に対する意識向上を目的に開催され北豊島地域コミュニティ推進協議会の地域への活動（人と環境にやさしい街づくり）浸透を目指す。	11/1サイクル&エコカーニバルに参加、エコ活動の推進と協議会のPRを行うことが出来た。企業参加によるゲームや体験を通じ自転車マナーやエコドライブを学ぶ。	新省エネルギー、3Rの重要性など“交通・環境・安全”について学び交通や環境に対して意識向上、今後の地域へ活動の浸透と発展が期待できる。	現在の参画状況はサポーター的な要素は大きいがコミュニティ協議会の存在も認められたと思われ、今後パネル展示・ディスカッションも必要。地域活性化への積極的な取組PRを行う。			カーニバルのブースで、エコッキングや美化ウォーキング活動中のパネルや写真を展示したり、廃油キャンドルのブースでの活用など、実施されている環境活動の広報をされてはいかがでしょうか。	環境にやさしい課 自治振興費

各部会でもまとめられていたものを役員会で決定する。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

環境美化ウォーキング事業	39	補助金	39	継続的に地域の清掃活動を行うために必要な用具を購入し、子どもたちを含む地域住民が地域美化運動を展開する。	北豊島地域内のゴミ等を拾いながら、ウォーキングを通じて健康と地域交流を目的とした美化活動を実施する。地域住民の努力にも拘らず、ゴミはあいつも変わらず減らない。ゴミを出さない様に啓蒙活動を強化する。	環境にやさしい街づくりを目指し 1)地域美化に向かって、老若男女の参加を得て「ごみ拾い」を行う。 2)並行して健康改善の為、約2km程度のウォーキングを実施。H26.7.5住吉地区(雨天中止) H27.3.6天神地区 参加者40名	・地域における美化活動を積極的にPR ・環境美化活動を継続することによる地域の変化(良化)を肌で感じ自主的活動を拡大する。 ・ウォーキングに目的を持ち、気持ちの変化・見る目の変化・四季の変化を感じ、地域の新たな一面を見つける。 ・誰でも気軽に参加できる環境づくりによる輪の展開。 ・地域の活動との融和を図る。 ・ゴミ発生の分析と対策の検討。	・地域の従来活動を全地域住民に認識し参加していただく手段として地域参加者との融和を図る。 ・子供～高齢者まで楽しく参加して貰える環境づくりを心掛ける。	美化ウォーキングと併せて、ごみ減量の啓発もできるような仕掛け、たとえば参加者が楽しく学べる環境クイズなどを取り入れると事業活動がさらに充実すると考えられる。	環境にやさしい課 自治振興費
環境にやさしいエコクッキング講習会開催事業	40	補助金	40	楽しい食事ができ、環境に配慮した家計に優しいクッキングスタイルの講習会を開催する。	〈キッチンから地球へのおもいやり〉をテーマに毎日の食材調達から調理、そして楽しい食事、後片付けまで環境に配慮する(エコロジー)だけでなく、家計にもやさしい(エコノミー)これからのクッキング・スタイルを先取りする。	8/2に実施(1回/年) 参加者35名 きたてしまプラザにて3名のヤサイソムリエの方にドライカレー他2品の作り方を“今日からできるエコクッキング”実践。 小学生～70歳代まで幅広い年代が楽しく学習していただいた。	＜食材の調達～調理～食事時の努力～後片付け＞まで一貫してエコロジーを実践する。 日頃何気なく違っている事ではあるが新鮮な感覚にて自然に身に着けていただいた。	家庭でも次の事項に配慮して貰う事を心掛けていただく。 ・食材を調達…近い産地の食材を近くの店で調達 ・調理…油を控える。加熱・冷却しないメニューを考える。食材は使い切る。食べられる分量を考慮。 ・食事の時…調味料を控える。食べ残さない。 ・後片付け…洗う前にナプキン等で油分を拭き取る。とぎ汁やゆで汁を有効に使う。	食材、水及びエネルギー資源の有効活用、ごみの削減、地球温暖化の観点からもエコクッキング講習会は重要な事業であると認識している。メニューなどに工夫をこらし、さらに環境にやさしい事業にしていきたい。	環境にやさしい課 自治振興費
地球にやさしい思い出作り事業	30	補助金	30	廃棄天ぷら油を利用し、凝固剤等で固めエコキャンドルを作成・点灯し、住民の憩いの場づくりを行う。	「みんなで広げるエコキャンドルの輪」 廃油の再生利用を目的とし、多くのご参加をいただき、廃油ローソク作りを体験し…準備～キャンドル点火～後片付け(分別回収を含)…と楽しい時間を共有し「人・文化・自然」のコミュニケーションをより強くできればと考え立案。	12/23初めて「クリスマスイベント」を計画 参加者…45名 廃油リサイクルによる「エコキャンドル」みんなで広げる地域の輪 第1回ミニフェスタを開催しました。 多くの子供さんが参加し、興味津々楽しんでもらえ、来年以降一つのイベントに盛り上げ期待できそうです。	楽しい時間を共有し。「人・文化・自然」のコミュニケーションをより強くして地域の輪をもっと大きく広げましょう!!との感触は掴めたかと思えます。	・小規模であっても近隣の住民に喜んでいただけるようなテーマを考える。 上記を考慮し、参加者の協力と理解を得る事。 ※北豊島小学校とのコラボを相談中です。 ・火気厳重注意・やけど等怪我に注意。	廃油のエコキャンドル作りは、リサイクルとイベント(クリスマス)を繋ぐ有意義な行事で、今後もアロマキャンドルやキャンドルの絵付け等内容を充実させて続けていきたい。	環境にやさしい課 自治振興費
子育て支援事業	670	補助金	670	週3回あそびの広場を開催し、紙芝居や絵本、TVシアター等親子のふれあい遊びと子育ての悩み等を関係者とともに語り合う。	継続事業ですが当地域には以前から未就学児に対して子育て施設がなく、公的支援のない中、子育て中の母親より子育ての仲間グループ設立の要請でロケットキッズが設立され、当協議会が事業として支援をする。	木田弘子氏中心にプラザ内の一室(ふれあいルーム)を開放し、テレビ等によるシアター劇場、童話の読み聞かせや市より支給のおもちゃ等での遊び、秋の運動会、手掘り、クリスマス会、夏の水遊び等ロケットキッズが運営され、平成27年度未就学児とその保護者3,610名の参加がありました。子育ての悩みなど話し合え、好評を得ている。昨年度より指導員有償ボランティア制度を導入、自主運営費にて処理。	母親たちにも好評で幼児を明るく元気に育て、自分自身の子育て悩みなど共通した話題が出来、参加者も年々増えつつある状況で事業効果は上がっていると思います。個人相談室や3歳児中心の『びよびよクラブ』等開設	木田氏を中心に事業活動を展開しているが内容から見ても有償ボランティアに切り替えたが限度があるので検討を加えたい。出来れば何かの形で市の支援をお願いしたい。	ひろば的な役割だけでなく個人相談室や季節にあった事業等盛りだくさんの内容を、親子で楽しめる場として地域に定着している。母親間の口コミで利用者は増加しており、北豊島中学校区支援推進協議会等で他機関と連携しながら地域に根付いた活動を広げてもらいたい。	子育て支援課 自治振興費
豊島東公園及びバスケットコート維持管理事業	214	補助金	214	青少年の健全育成を図る事業。定期的清掃作業用用具の購入と時間外侵入者防止用門扉の開閉管理等を引き続き行う。	地域住民、青少年の体を動かす場としてバスケットコート、公園遊具の維持管理をしている。	3on3のゴールネットやコート、遊具の傷みをチェックし、安全で整備された環境を引き続き維持できている。	連日、多くの地域住民、青少年のバスケットチームの練習、住民の健康増進に役立っている。	コート、シュート板等の維持管理が必要。運営について地域住民の意見を反映していきたい。	バスケットコートを含めた公園の一部管理を地域で実施することで、良好な状態が保たれており、地域の公園として大切に利用していただいている。	みずとみどりの課 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金	150	住民間のコミュニケーションを図る、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。					事業の実施により、地域スポーツの振興が図ることが出来た。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	9,277			事業提案限度額	9,277千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

これは地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	161	庁用器具費 91 補助金 70	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	1. 地域内の共同利用施設「姫室室町会館」のグリル付据置コンロが老朽化しているため、利用者から買い換えの要望があったので購入した。 2. 地域内の普通会館「満寿美会館」の湯沸器・ステンレスボール、ざる、が老朽化しているため、利用者から買い換えの要望があったので購入した。	地域内の共同利用施設「姫室室町会館」、「満寿美会館」の老朽化した備品を新規に買い換えることにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した備品を新規に買い換えることにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設の備品も買い換えを検討していきたい。			地域分権・協働課 共同利用施設管理費/ 総務課 自治振興費	
青バト隊パトロール活動事業	275	修繕料 63 自動車重量税 7 補助金 205	青バト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止効果を図り、安全な地域環境をつくる。	青バトでの呉服小学校区内巡回パトロール実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	呉服会館敷地内に設置した青バト駐車場の拠点に、隊員による巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることで地域の安全確保ができていく。	呉服小学校区内の細い道まで巡回範囲を広げることにより、各種犯罪の抑止効果に車両を活用できた。	より一層の巡回活動の充実を図る。			危機管理課 一般管理費/ 自治振興費	
水路安全対策事業	1,100	修繕料 1,100	高齢者などの歩行者が安全に通行できるように、また、狭小な道路を解消するためにグレーチング設置により、利便性と安全を確保する。	児童の登下校時に利用する通学路に、蓋のない水路があり、児童にとって危険な箇所であり、転落事故が発生しないかと気になっていた。	高齢者や子どもが開渠の用水路に落ちないように、また狭小な道幅を解消する意味でも暗渠（グレーチング設置）にする事により、利便性と安全を確保する。	暗渠（グレーチング設置）にする事により、登下校時の児童の安全を確保できた。近隣の住民たちからも安全確保の声が聞こえてきた。	地域内には、まだまだ危ない箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。			みずとみどりの課 排水対策費	
道路安全対策事業	100	修繕料 100	歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	交通事故等の危険をはらんでいる交差点に安全な施策を推進して事故の防止を図る。	カーブミラーの設置により、死角が解消され安全性が向上した。	これまで見えにくい人や車の往来がカーブミラーの設置で確認でき、子どもやお年寄りを交通事故から守れるようになった。	地域内には、まだまだ危険な箇所が点在しているので、カーブミラーの設置を順次検討していきたい。			道路課 交通対策費	
子育て支援事業	200	修繕料 200	呉服小学校に赤ちゃんのオムツ用ベッド及び、女子トイレに子どもホルダーを設置することにより、子育て支援を推進する。	地域内のくれは小学校の一般開放トイレに、おむつ用ベッド、子どもホルダーの設置の要望が子育て世代の市民からあった。	地域内のくれは小学校の一般開放トイレに、おむつ用ベッド、子どもホルダーの設置することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	子育て世代の市民は日々負担増であるが、少しでも安心安全の助けになっているので大いに歓迎されている。	他の共同利用施設トイレにも設置を検討していきたい。			管理部総務・学務課 学校管理費	
呉小吹奏楽クラブ支援事業	229	校用器具費 229	呉小吹奏楽クラブの楽器購入を支援する。団体の活動支援を行う。	呉服小学校の吹奏楽クラブの楽器が老朽化していて、正確な音程を出せない状態である。	老朽化した楽器（アルトサクソ）を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つとともに、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れる。	年々老朽化する楽器を計画的に買い替えすることがこれからも必要と思われる。			管理部総務・学務課 学校管理費	
地域コミュニティ紙等発行事業	456	補助金 456	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の存在や活動内容について、地域全体に広報することで理解してもらっている。	校区に居住する住民に、協議会の活動報告を周知することにより、協議会の活動について理解が得られた。	結果、校区に居住する住民から協議会への参画希望が増加し、特に若い世代の人達からの新入会員が得られた。	今後も益々内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。			地域分権・協働課 自治振興費	
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	587	補助金 587	呉服会館を地域コミュニティの拠点施設として管理運営を図る。	共同利用施設呉服会館の一室を地域コミュニティ推進協議会の活動拠点として、備品等の整備を進めている。	地域コミュニティの拠点として、地域活動の活性化が図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に大いに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。	各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。	子どもたちを対象とする事業が充実しており、PTAとうまく連携を図ることにより、地域活動に寄与するよう期待しているものと評価。	地域分権・協働課 自治振興費	
合同防災訓練事業	130	補助金 130	不慮の災害時、地域住民と協力し難局を乗り越えられるよう、住民相互による協力関係を構築するため、呉服小学校区内の合同防災訓練を実施する。	校区内での防災訓練は、昨年から8自治会で実施して、実際の災害が発生した場合を想定した上で、地域住民同士が一体感を得ることができた。	呉服小学校の校庭及び体育館を活用して、合同防災訓練（8自治会）を実施することで、地域住民同士が一体感を得ることができた。	不慮の災害時、自主防災会と地域住民が協力して難局を乗り越える事ができるよう、相互信頼の構築ができた。	防災訓練の内容をより充実させることにより、地域住民との信頼関係をさらに向上させること課題と思える。			危機管理課 自治振興費	
くれは祭り開催事業	1,250	補助金 1,250	くれは祭りを各種団体と協働で開催する。地域の人々との繋がりを深め地域コミュニティの活性化を図る。	くれは地域内のコミュニケーションの充実を図ることを目的に合同で祭りを開催する。	地域内の各種団体の協力を得て、ステージをはじめ模擬店等で盛り上げていただき、地域内のコミュニケーションの充実を図ることができた。	今年度は2回目ということで、呉服小学校PTAとのコミュニケーションも図られ、祭りを盛り上げることができた。また、PTAの方々の協議会への入会もあり、大きな収穫である。	地域内のコミュニケーションを今後も積極的に図り、地域のつながりを広げていきたい。			観光・ふれあい課 自治振興費	
呉服小学校花いっぱい運動支援事業	200	補助金 200	地域と学校と一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	昨年度より引き続き実施している事業で、地域と学校と一緒に花を育てる活動を支援する。	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。	呉服小学校と地域と一緒に花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを感じ、感性豊かな心を育む事ができた。	感性豊かな子ども達を育てていく事業にも、今後とも積極的に対応していきたい。			環境をまもる課 自治振興費	
MTPフェスティバル支援事業	200	補助金 200	池田地域コミュニティ推進協議会と協働で、MTPフェスティバルの支援を行う。	池田地域コミュニティ推進協議会と共に、MTPフェスティバルの支援を行う。	小学校区から中学校区へと範囲が広がり、また、他の地域コミュニティとの交流も活発にできた。	MTPフェスティバルに当協議会が参画することでコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事への報奨金も検討しながら、フェスティバルが活性化するよう努める。			教育政策課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

ウォークラリー事業	50	補助金	50	地域の子ども会や各種団体と協働でウォークラリーを開催し、呉服校区の子どもや幅広い世代間のつながりを深める。	呉服校区の子ども達と地域の人達との繋がりを深め地域の活性化を図る。	呉服小学校区域内の子ども達とその保護者、及び会社が所在する社員とその家族を対象に校区を12ブロックに分けて、3km、5km、8kmの組み合わせでウォーキングを楽しんだ。	呉服校区の子ども達と地域の人達とが、我が町を見直す機会と新たな発見や危険個所を再認識しつつ家族友達の親睦を深めつつ、健康促進になった。	今後も安全を配慮し継続していきたい。		親睦を深める事業となった。今後も安全に実施していただきたい。	生涯学習推進課 自治振興費
グラウンドゴルフ実施事業	70	補助金	70	高齢者と若者が一緒にグラウンドゴルフを行い、スポーツを通じて地域コミュニケーションを図る。	グラウンドゴルフの普及とスポーツを通じての地域のコミュニケーションを図る。	年3回のグラウンドゴルフ大会を開催することにより、地域住民同士のコミュニケーションが図られた。	参加者は会を重ねるごとに増加し、今年度は小学生の参加も見られ、グラウンドゴルフを通じてのコミュニケーション作りは効果あり。	若者の参加が得られなかったことなど、今後の広報活動や運営の方向性に検討の余地あり。		コミュニケーションをはかる事業となった。競技上若者の参加は少ないと思うが、参加できるよう検討していただきたい。	生涯学習推進課 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金	350	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会を支援する。	当協議会が行事報償金として支出することで、地域住民のコミュニティ意識の向上を図る。	市民レクリエーション大会に当協議会が参画することで地域住民のコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事報償報奨金とも検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化するように努める。		事業の実施により、地域スポーツの振興を図ることが出来た。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	5,458			事業提案限度額	9,716千円	次年度繰越金額	4,258千円				



地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

石橋地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
		説明									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ設置事業	3,025	電気使用料 25 修繕料 3,000	安全で安心な暮らしの実現に向け、さらなる街頭犯罪件数の減少を図るため、防犯カメラを設置する。	当地域では、青い橋、井口堂会館に防犯カメラを計5台設置している。	今回、池田警察署からの増設要望もあり、稲荷山古墳、生協前、旭丘3丁目（狭間池住宅近く）、石橋公園西、交通公園近くの5カ所に防犯カメラを設置した。	稲荷山古墳で1件の開示請求があった（交通事故関係？）。井口堂会館で2件の開示請求があった（痴漢行為？）。犯罪と事故等の抑止効果と事後捜査への有効活用が期待されると思われる。	メンテナンス等の維持管理費の負担。				危機管理課 自治振興費
AED管理事業	139	消耗品費 139	使用期限の切れるパッド、バッテリーの交換を行う。	井口堂北、石橋北、旭丘会館の3カ所に設置。	幸いにして使用した事例はない。	会館を使用する地域住民への設置場所の告知と安心感。	AEDの耐用年数後の費用負担及び、実際の使用訓練。				健康増進課 保健衛生総務費
公園整備等事業②	510	修繕料 510	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、機能の維持・充実を図る。	芝生は伸び雑草も多すぎる。花壇の花が少ない。落葉、いがのカラーも多い。砂場は小さい。遊具場所付近の凸凹が多い。	第2期芝生の植樹により雑草部分も減少。花壇は、池田市環境をまもる課から花の苗頂きました。砂場は倍の広さになった。	芝生の面積が倍になり憩いの場所になりつつあり花壇も面積が倍になり花の種類も多くなり憩いの場所になった。砂場も倍になり親子の憩いの場になった。	芝生の植えて無い場所には雑草が生い茂っている。芝生の植付を続行して行く。遊具場所付近の凸凹を無くしたい。				みずとみどりの課 公園費
地域コミュニティ紙等発行事業	400	補助金 400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	年間各都が行う事業内容を住民にPRすることでコミュニティの存在と役割を知ってもらう為に行う事業。	年間2回の発行、旭丘と石橋地域が互いの地域コミュニティの活動内容と地域性を少しずつ知ってもらえた。	紙面を通して地域に必要なニュース、「マイナンバー」はどうするの？「詐欺」に引かない等、PR出来た。	地域コミュニティの中の事業が継続型が多い、紙面が報告の記事ばかりになる、話題性のあるものを扱いたい。				地域分権・協働課 自治振興費
地域内会館備品運営事業	350	補助金 350	井口堂北会館に整備した備品の運用を行う。	石橋地域内の各種ボランティア団体の会議資料やチラシを各々がコンビニ等でコピー作成して、費用、時間が掛かり困っていた。	会議資料や会議決定、変更事項などが速やかに印刷し、その場で周知徹底することが出来て再会議、再配布する時間手間が省かれた。	各団体の印刷費用、時間が軽減され余剰になった経費や時間がその他の活動に生かされることが出来、責任者、資料作成者の負担軽減が図られた。	当機の設置場所が2階廊下の為、印刷音が他部屋に響き使用者からクレームを受けることがある。この度旧機械室が改修整備され次第、使用許可を得て格納設置したい。				地域分権・協働課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	673	補助金 673	自主防災組織の体制強化を図るため、防災倉庫に防災備品を整備する。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	過去地域内の4カ所の防災倉庫に、今後必要であると思われる防災備品を安全部会員、地元住民の意見を取り入れながら取り揃えてきた。 これまで、5月の第4日曜日に石橋小学校の校庭、体育館で地域防災訓練を行ってきた。訓練内容に多少のマナー化もみてとれた。	石橋公園内の防災倉庫が手狭になり、もう1カ所防災倉庫を設置する必要があるという意見が出た。実際地元の納涼大会を公園で開催するにあたり、石橋小や石中から重量のある机やイスをお借りし開催してきた。お世話する人も高齢化が進み、なるべく近くから運べるようにしてほしいという要望があり、防災倉庫を1台現状ある防災倉庫に併設した。色々な催しに使用する机を補充もした。又、有事のときには、なによりも水の確保が大切なのでという意見が多数あり、折りたたみ式の水容器を購入した。 11月27日（金）の第5時限・6時限の授業時間をお借りし、石橋中学校で実施した。5年前の東日本大震災で地元の中学生在が避難誘導に大きな力を発揮したということに耳にし、以前から当地域でも地元の中学生的防災訓練への参加を模索してきた。今回、池田市教育委員会の主導で、石橋中学校のご協力も得て池田市で初の取り組みと思われる中学生を中心とした防災訓練を行った。	倉庫を1台設置することにより、備品の整理、整頓が出来、スムーズな取り出しが可能となった。又、机を購入することにより、各種イベントの準備と片付けの時間と労力の軽減が図られた。折りたたみ式水容器に関しては飲料水以外の、生活用水（トイレ、洗顔等）の使用として考えている。 近隣に石橋保育所、万寿荘、敬老会館が立地しているが、それらの施設の協力で、避難誘導訓練、AED操作、三角巾の作り方、パーテーション（ダンボールを用いた居場所）づくり、炊き出し訓練を行った。中学2年生を中心に訓練をおこなったが、皆真剣に取り組んでくれ、今後にも有意義な訓練を行うことが出来た。	防災備品に関しては、活用訓練等、近年発生している自然災害等実際起こり得る事を想定した取り組みに力を注ぐことが必要と考えている。今後は、日用医薬品等の補充も必要との意見もでてくる。 あらかじめ訓練の要項があるので、沈着、冷静に行うことができたが、大災害時等の有事の時にいかに普段とおり立ち居振る舞い出来るかが、今後の課題であるが、環境や考え方、価値観の違う人々をどのようにまとめられるか？普段からの、隣近所や各種団体、自治会等とのコミュニケーション作りが重要である。自助、共助の大切さを普段から啓発する地道な取り組みが必要と思われる。				危機管理課 自治振興費
地域行事等活動促進事業	400	補助金 400	納涼大会等を実施する地域団体に電気設備設置及び活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。	地域住民からの協賛金で運営が成り立って来た納涼大会だが時節柄厳しい状況が続く中、電気設備や備品の老朽化に苦慮していた。	電気設備や備品を新調、修理等が出て、明るく安全に運営することが出来た。運営手助け等会費が増え顔馴染みになり挨拶する光景が増えた。	運営を手伝う人、石橋小、中学校の先生方や参加する住民が年々増加し、盛大に行われコミュニティ活動行事が充実した。	大会に使用、準備している設備、備品などの老朽化が進み、新調、購入して用具類の充足を図る必要がある。	各都会でまとめられたものを、役員会で決定する。	初めての取組として、中学校との合同防災訓練を実施いただいたことは、子どもたちの意識向上にもつながり、高く評価するところ。今後も地域全体に協議会の広報を図りながら、事業実施されることを期待する。	事業概要に基づき、適正に予算執行されている。	観光・ふれあい課 自治振興費
地域美化整備事業①	93	補助金 93	美しい街を目指すため、啓発用ポスターやチラシ等を作成し、地域住民のモラルの向上を図る。	側溝の中は、雑草・石・土砂・タバコの吸殻・空き缶など捨てられよう。ポスターの破れ、引きちぎれ、固定箇所破損等有り。	側溝の掃除は、市役所に依頼をした。きれいになった。ポスターの張り替えは環境部会員で対応した。「美しい街づくり」のポスターを環境部会員で各家庭にポスティング。各自治会へも、お願いをしました。携帯灰皿の無料配布を2回環境部会員で行った。	側溝内のゴミは市役所に依頼をした所はきれいになった。ポスターのメンテ張り替えを済ませて、美観も良くなった。タバコの吸殻も、路上には、少なくなってきた。掃除の出きていない側溝内には、タバコ、空き缶捨てられている。	地域住民の方々の美しい街づくり意識向上への協力要請を考える。一般の通行人への啓もう活動の為、ポスター掲示箇所を増やしたい。空地の雑草伸び放題等啓発活動の続行。				環境にやさしい課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

地域美化整備事業②	60	補助金	60	ガーデニング教室の開催し、花や緑あふれた「美しいまちづくり」を目指す。	ガーデニング教室の講師依頼に苦勞をいたしました。秋に実施のため6月に依頼に行くと、大半の講師の方々は、秋期は埋まっているとの事。池田市環境をまもる課の協力をえて講師の方決めました。	21名の参加者が集まり楽しくガーデニングが出来た。	講師の方の指導が分かりやすく参加者全員が満足の出来栄であった。参加者は高齢者の方が多い。今後も続けてほしい要望も有りました。	参加者が少ない。参加者は毎回同じ方々。上記状態なのでガーデニング教室は今回で一旦中止します。次年度からは別の事業を進めます。	新たな緑化事業に期待する。	環境をまもる課 自治振興費
リサイクル活動事業	30	補助金	30	ペットボトルキャップの回収リサイクルを行う。資源の有効利用を図ると同時に住民の意識を高める。	ペットボトルキャップは燃えるゴミとして処分されていた。	資源の少ない日本で再利用を考える。ワクテンとしてのキャップ回収が大きく言われる中、国内でランターなどの製品としてのリサイクル意識向上。	回収量が年々増加、回収ボックスの定着化に伴い、地域設置場の増加依頼	ランターの他にバケツや他商品開発が課題	リサイクルに繋がる事業なので継続いただきたい。収集量の推移などをグラフ化して今後の活動の目標にすると励みになるのではと推察される。	環境にやさしい課 自治振興費
公園整備等事業①	118	補助金	118	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、機能の維持・充実を図る。	芝生は伸び雑草も多すぎる。花壇の花が少ない。落葉、いがのカラも多い。砂場は小さい。遊具場所付近の凸凹が多い。	第2期芝生の植樹により雑草部分も減少。花壇は、池田市環境をまもる課から花の苗頂きました。砂場は倍の広さになった。	芝生の面積が倍になり憩いの場所になりつつあり花壇も面積が倍になり花の種類も多くなり憩いの場所になった。砂場も倍になり親子の憩いの場になった。	芝生の植えて無い場所には雑草が生い茂っている。芝生の植付を続行して行く。遊具場所付近の凸凹を無くしたい。	石橋公園の一角に芝生を植栽することにより当該箇所が地域住民の憩いの場になっている。	みずとみどりの課 自治振興費
交通安全モラル啓発事業	50	補助金	50	車・人・自転車の事故減少及びマナー向上のため、交通安全モラル教室を開催する。	自転車同士、自転車と人、自転車と車等による事故の増加が近年著しく増加している。ルール、マナー、事故後の賠償金問題への知識不足が顕著である。参加賞として、光るアームバンドを配布し、夜間の事故防止に役立てばと願っている。	石橋小学校体育館で交通法規、マナー、ルール、事故後の賠償金問題等、座学を中心にしながら、何回も、講習会を開催して、地道に取り組んでいかないと一朝一夕には効果は出ないと思われる。学校等でも授業の一貫として取り組んでほしい。	自転車は、身近で便利な乗り物であるがゆえ一つ間違えば意外に危険な乗り物であるという認識が出来た。	気長に継続する事により、自転車事故の軽減につながれば幸いであるが、自転車事故の軽減の為に道路整備や、高齢者を始め家族ぐるみへの啓蒙活動と、自転車保険への加入徹底が必要と思われる。	自転車の安全な乗り方を、子どもだけでなく保護者も学ぶことで、家庭での交通安全教育の契機もなった。	交通・総務課 自治振興費
異学年交流事業	200	補助金	200	異学年交流により上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を慕い敬う人間関係を幼少期から育成する。	同学年、同クラス、PTA、地域の人々、子ども会は個々に交流し活動をしているが、共に協働で活動する機会があまり無く交友が希薄になりつつあった。	子ども達や若い保護者、地域の人達、高齢者住民とが準備会議や当日の準備、夜店の運営手助け等会う機会が増え顔馴染みになり挨拶する光景が増えた。	2回目の交流事業で多くの人から協力の申し出があり1回目よりも多くの人に参加して頂き、美味しく、楽しく、可笑しく、参加者全員が楽しい時間が過ぎた。今後も継続的に開催して欲しいとの要望する声が多かった。耐震工事関係者からも電気配線の協力を得た。	交流事業の認知度が上がり多くの人に参加して頂けたが人々の流れに再考すべきである。高齢者の参加できるゲーム類を考慮し、より家族ぐるみで参加出来る事業内容とした。	子ども達や若い保護者、地域の大人、高齢者住民等が準備や打合せ、夜店の運営手助け等、年代を越えた親密な交流が図れた。また顔馴染みになることでお互い挨拶する光景も多く見られた。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金	200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上とコミュニティ活動の充実に努める。					事業の実施により、地域スポーツの振興を図ることが出来た。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	6,348			事業提案限度額	9,716千円	次年度繰越金額	3,368千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

五月丘地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
		説明									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
地域内会館設備改修事業（五月丘会館）	1,658	修繕料 1,658	五月丘会館男子トイレを和式から洋式にする。	設備に関しては経年劣化による老朽化と男女共用で利用し難いという声以前から上がっていた。	和式から洋式に取替えを行い、清潔で一定のバリアフリー化も達成した。	高齢者の方、年少者についても利用しやすくなった。	管理者、利用者が清潔さ、快適さを心がけることが肝要である。			会館の利便性が向上したものと評価。今まで以上に会館を利用いただけることを期待する。	地域分権・協働課 共同利用施設管理費
防犯カメラ設置維持管理事業	2,195	修繕料 2,180 電気使用料 15	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	平成27年度までに8ヶ所の設置を見たが、安全管理、犯罪予防の観点から、未だ必要数量が不足しているとする意見が多くある。	平成28年4月～5月にかけて3回にわたり、池田市当局、捜査当局から開示の同伴依頼を受ける。	住民に対する安心感が増しているのは大きな成果だ。犯罪、事故の対しても実効を期待したいが、何よりも抑止効果ある。	映像確認の簡素化、捜査の迅速化という点を踏まえて、設置機種の再考が必要。			地域の危険箇所にて防犯カメラを設置することにより、犯罪の発生を未然に防ぐ効果を期待する。また継続的経費について理解し、設置場所について十分の議論・調整の上、提案を期待する。	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	17	電気使用料 17	防犯カメラの電気代を賄う。	五月丘地域内8ヶ所に設置している防犯カメラ維持のための電気料金等。			設置台数の増加に伴い管理事業が増加。			継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	緊急通報装置の電気代を賄う。	緊急通報装置を主要通学路に設置して、その維持、管理のための費用。	犯罪、事故等は無い。	犯罪、事故等は無いので一定の抑止効果も認められる。	緊急通報装置にいたずらがたまにあり、近隣に迷惑がかかることがある。			緊急通報装置の運用が、今後犯罪の抑止効果に繋がることを期待する。	危機管理課 自治振興費
イベント運営事業	405	補助金 405	地域交流や地域活性化などに重点を置き、地域住民参加のイベントを行う。	五月山ハイキング、グランドゴルフ、は以前から行っている。新しく、五月山地区の立地を生かした、里山教室を開催した。	3つのイベントとも参加者が多く盛況で、子供たちはハイキング、高齢者はグランドゴルフ、親子で里山教室という具合である。	イベントの開催を増やすごとに参加者、主催者の連帯ができてくるので効果は十分にあるようだ。	これからもイベントの回数を増やして、老若男女を問わず交流の場が広がれば幸いです。ただし安全第一が肝要です。			親睦を深める事業となった。回数を増やして交流の場を多く提供していただきたい。	生涯学習推進課 自治振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	270	補助金 270	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域コミュニティ推進協議会の住民に対する、認識や活動に対する理解が得にくかったため、PRの必要性があった。	過去、5年以上にわたり、年/2回発行し、地域に全戸配布を行い、地域コミュニティ推進協議会の掲示板にも貼付して活動内容のご理解、ご参加を広く仰いだ。	地域コミュニティ推進協議会の活動内容の充実に従って、徐々にではあるがPR効果は出来てきている。	コミュニティ推進協議会の活動と並行して、コミュニティ紙も同じく進化を期待したい。			大変情報量の多い紙面となっている。今後さらに住民が手に取りやすい紙面づくりに期待する。	地域分権・協働課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業	81	補助金 81	都市再生機構（UR）の北集会所一部を借り上げ、協議会の拠点施設とする。	各種の用具を保管する場所がなく、分散して保管していたが効率が悪く、整理も悪かった。	隣接する部屋をコミュニティ・カフェとして月/2回、URから借り受けており、カフェの備品なども収容出来て、効率的に利用できるようになった。	隣接する部屋を利用できるという利便性は申し分ない。施設のバリアフリー化された構造も選定基準として合致していた。	コミュニティ・カフェの備品の増加等が見込まれるので、手狭になってきた。			カフェ活動によるコミュニティづくりが進んでいることにより、認識。さらなる活動拠点の充実に期待する。	地域分権・協働課 自治振興費
コミュニティサロン設置事業	198	補助金 198	地域の人々に情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを月2回設置する。	地域住民の交流を図る場所の必要性と推進協議会を地域に浸透させることを意図して、カフェを月/2回開催し、地域の人々が楽しめるような、イベント開催の場がなかった。	回数を重ねるごとに内容の充実が図られ、高齢者、親子づれの参加が多くなってきている。	カフェを主宰するボランティアの皆さんのご苦労もあり、イベントの出演者、地域住民のご協力を得ながら、住民の交流の場としては定着をしている。	より一層多くの地域の皆さんの参加を得て、イベントも皆さんのニーズを先取りして、幅広い企画を行い、楽しんでいただけた事業構築を行う。			地域の活性化に寄与しているものと認識。今後も創意工夫いただきながら、継続いただきたい。	地域分権・協働課 自治振興費
地域防災訓練強化事業	50	補助金 50	防災意識向上のため、ポスターの製作と隣接地域と合同で防災訓練や勉強会を実施する。	イザ！という時に備えて一人でも多くの住民の参加を期待した。昨年はアルピス五月丘の参加が少なかったため危惧していた。	池田市各部署、渋谷中学校、五月丘小学校、大阪府、等関係部署の協力を得て、約150名の住民が各種訓練を経験できた。	訓練の経験を通じてイザ！という時に役立つことを期待したい。	自助、共助、の部分で各防災サークルの装備品を使用した、より実践的な訓練を行う必要がある			校区内の自主防災組織が合同で防災訓練を実施することにより、地域の連帯が生まれ、今後万が一災害が発生した時減災につながることを期待する。	危機管理課 自治振興費
電動自転車安全パトロール事業	7	補助金 7	坂道の多い五月丘地域内で、地域住民の協力を得て、電動自転車安全パトロールを実施し、犯罪の抑制を図る。	地域内は坂道が多く、円滑なパトロール、連絡業務を行うことが困難な状況にあった。	電動自転車を3台購入した。設置場所は五月丘小学校の駐輪場を利用して、風雨から防護できるようにした。誰でも使用できるようにしている。	電動自転車の利点を生かした業務遂行ができるようになった。	バッテリー等のメンテナンスが必要。			今後ともパトロール活動の強化に努めていただきたい。	危機管理課 自治振興費
盆踊り大会支援事業	320	補助金 320	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営を支援する。	踊り手に音楽が聞こえにくい、観客から見ると照明が暗くて分かり難いという意見が多かった。	照明設備の更新化、音響面ではアンプの更新、スピーカーの新規設置を行う。	会場の照明が明るく感じられ、全体の雰囲気も良くなった。	スピーカー、アンプについては他の事業にも併用できるように今後、容量、性能の向上を図る必要がある。			事業概要に基づき、適正に予算執行されている。	観光・ふれあい課 自治振興費
五月丘フェスタ開催事業	500	補助金 500	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場としてフェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	伝統的に盆踊り、市民運動会の2つが地域の住民のふれあいの場となってきたが、そのほかにも、地域のみんながふれあえる場を必要としていた。	準備段階、当日のイベント、戸外のスポート競技、警備、片付け、等来賓の方々、出演者、支援者、運営者とも楽しかった、良かった、又したいと思った。	地域の人たちが一体感を持って、達成感を感じて、これからも前に進む可能性を感じられたことは大きい。	会場設営、放送設備、イベントの選定等、学習したことを踏まえてより良いフェスタを目指して行きたい。			事業概要に基づき、適正に予算執行されている。	観光・ふれあい課 自治振興費
カルチャースクール開催事業	30	補助金 30	文化的な住民のふれあい・交流の場としてカルチャースクールを開催する。	生活に直結した、子育てに役立つ、音楽的な、文化的なという催し物がなかった。	多種多様な希望を一本化できず時がたつてしまい、実行出来なかった。	なし。	意見、希望を早く一本化して出演者に依頼する事が大切だ。			事業概要に基づき、適正に予算執行されている。	観光・ふれあい課 自治振興費

各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。

地域の新たなイベントとして初めて「五月丘フェスタ」が開催された。またコミュニティカフェも定着しており、地域の交流・ふれあいの場の提供により、ますますの地域活性化に寄与することを期待する。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

五月丘こども神輿支援事業	500	補助金	500	五月丘こども神輿のお祭り用品の支援を行う。	五月丘地区は神社、仏閣がなく神輿を担ぎたくても何もない状態であった。	世話人の大人を中心に、子供たちの希望を問い合わせたところ希望者が30名以上いて、世話人が神輿を作成して、子供用の法被を揃えた。	子供たちにとっては神輿を担いで神社に奉納するという古来からの文化に接する事は情操的には良いとは思われる。	こども神輿の補強が必要、今後も参加人数が増える見込みなので、安全対策、備品の整備が必要となる。	事業概要に基づき、適正に予算執行されている。	観光・ふれあい課 自治振興費
花プロジェクト事業	94	補助金	94	小・中学校関係者とともに協働で地域の人々が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	大阪府の緑化事業で小学校3年生の授業の一環として、取り上げられているものを当コミュニティ推進協議会が引き継いだ。	五月丘小学校校長先生以下教職員、PTA、児童、大阪府池田土木、業者の方の協力で素晴らしい花が咲いている。	植え付け、育成、開花を通じてそれに係わった人たちが何かを感じてもらえればありがたい。	係わる人達の意見を聞きながら事業を進める必要がある。	子ども達が花を通じて地域住民と協働することで、地域のコミュニティの輪が広がり緑化啓発の意識向上に期待する。	環境をまもる課 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	178	行事報償金	178	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	以前からスポーツ振興会が主催している市民運動会を支援している。	例年のごとく盛況のうちに終了。	運動会を通じて、参加者の皆さんが地域推進協議会を再認識していただければと思います。	運動会以外でも例えばグランドゴルフの地区大会を継続的に開くとかすると一層多くの発展が見込める。	事業の実施により、地域スポーツの振興を図ることが出来た。	生涯学習推進課 社会体育振興費
キッズランド支援事業	35	補助金	35	五月丘小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	金魚すくいをするための水槽を他所から借用していたが老朽化して破損した。	キッズランドの放課後に行う遊びの幅が広まった。一度に多くの児童が参加できるようになった。	キッズランド支援者の皆さんが物を大切に使うということ、工夫することを身をもって、教えていただいている。	手作りの遊び道具を支援者の皆さんが児童のために作成していただいているが、材料その他で苦労されているようで、今後支援の必要がある。	キッズランドで使用する用品等を補充したことにより、幅広い活動が可能となり、活動の充実につながっている。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
交通安全対策事業	68	補助金	68	「飛び出し坊や」を設置することにより、交通事故の抑止を図る。	「飛び出し坊や」のおもりの取り付け部分、看板が老朽化して見た目も悪く、一部は通行妨害にもなっていた。	見た目もよくなり、取り付け部分も補強したのでグラツキがなくなり安全性も向上した。	より目立つところに設置することができるようになった。	金銭的な制約も当然あるが、材質的に柔らかい物、ベースもコンクリートブロックではなく柔らかく、ぶつかってもけがをしないものが良い。	自動車運転者に対する注意喚起となり、歩行者の安全につながった。	交通・総務課 自治振興費
計	6,707			事業提案限度額	8,694千円	次年度繰越金額	1,987千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

石橋南地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）	
	説明											
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費	
地域内会館設備改修事業①(空港会館)	1,298	修繕料 1,298	空港会館1階のトイレを和便器から洋便器に改修し、男女別ブースを設置する。	1・2階トイレが和式で入口が男・女共用となっている。	1・2階共に洋式に改修すると共に男・女別ブースに改修した。	上記事業の実施により使用者の利便性と安心・安全が確保された。	地域住民による維持・管理に努める。	各部会（ブロック別）でまとめられたものを協議会で決定する。	空港会館及び石橋南小学校グラウンドのトイレ改修等、ハード面を中心に、提案いただいた事業を実施。今後は、地域による適切な維持管理に努めていきたい。	会館の利便性が向上したものと評価。今まで以上に会館を利用いただけることを期待する。	地域分権・協働課 共同利用施設管理費	
地域内会館設備改修事業②(空港会館)	1,834	修繕料 1,834	空港会館2階のトイレを和便器から洋便器に改修し、男女別ブースを設置する。	1・2階トイレが和式で入口が男・女共用となっている。	1・2階共に洋式に改修すると共に男・女別ブースに改修した。	上記事業の実施により使用者の利便性と安心・安全が確保された。	地域住民による維持・管理に努める。				会館の利便性が向上したものと評価。今まで以上に会館を利用いただけることを期待する。	地域分権・協働課 共同利用施設管理費
案内掲示板設置事業	128	修繕料 128	空港会館の案内掲示板を修繕する。	空港会館案内掲示板が老朽化の進行。	全面改修により安全確保と共に美観の改善にもなった。	地域住民の方々に喜ばれている。	見守り継続と有効利用。				案内板が見やすくなり、安全性も向上したものと評価する。	地域分権・協働課 共同利用施設管理費
地域掲示板設置事業	681	修繕料 681	老朽化した地域自治会の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	現在、地域掲示板は阪急高架下(王将前)の1ヶ所。	今回3ヶ所(石橋駅前公園、石橋前池公園、空港会館前)を増設し地域内4ヶ所となる。	地域住民への行事事内、会員募集等のPRに有効に活用出来ると思う。	掲示板使用要領の作成により適切な運用を図る。				掲示板増設による広報の充実を期待する。今後は掲示板等の作成が必要。	地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	245	電気使用料 45 設備保守点検委託料 200	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	現在、赤い橋、阪急高架下(王将前)、石橋会館、空港地下道入口に設置。	上記に設置のカメラの維持・管理の為定期検査を実施しより正確性を求めた。	必要に応じ、警察からの開示要請もあり効果を上げている。	今後も継続。				継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
石橋西公園美化事業	267	器具費 231 補助金 36	石橋西公園を美化維持のため、清掃用具の保管庫等を購入し管理する。	現在は、利用者が各自用具を持参し、待ち時間等を利用して清掃、整地(利用支障のない様)を行なっている。	本事業の実施により、清掃用具等保管庫並びに清掃用具等が完備した。	清掃用具等に身近に保管され種類も多く、作業がより便利となり、利用者に喜ばれている。	利用者により適切な使用と管理を継続する				環境美化に取り組みやすい設備が整ったので、今後は維持管理を含め、有効に活用していただきたい。	環境にやさしい課 環境対策費/ 自治振興費
石橋南小学校グラウンドトイレ改修事業	1,539	修繕料 1,539	地域行事などで利用するグラウンド内トイレを和便器から洋便器に改修し、男女共同トイレから男女別にする。	校庭南西隅にあるトイレは、和式で男女共用となっている為利用者にとっては、不便と不安がある。	利用を男女別ブースにし、和式と洋式に改修した。	本事業の実施により、利用者の利便性、安心を確保した。	利用者に使用上の注意を求めると共に、学校側にも必要に応じ協力を求める。				地域行事等で幅広い世代の方が集まる際に、安全・安心なトイレの利用に繋がっている。	管理部総務・学務課 学校管理費
AED管理事業	101	消耗品費 101	使用期限の切れるパッドの交換を行う。	設置AED（4ヶ所）の電極パッドの使用期限が到来する。	これ迄AEDの使用実績は無いが、緊急時の為定期交換を行なった。	緊急時の安心の為にも効果がある。	継続				共同利用施設等に配置することにより、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
水路安全柵整備事業	606	修繕料 606	今井水路沿いに転落防止柵を設置し、安全に通行できるようにする。	現在この場所には柵等は無く危険な場所として地域住民からの設置要求があった。	水路沿いに転落防止柵を設置した。	本事業の完成により、通行の安全・安心が確保された。	地域の方も見守り等で維持管理したい。				水利組合及び隣家への説明を実施して頂くことにより、水路沿いに転落防止柵が設置ができ、通行者の安全性が向上した。	みずとみどりの課 排水対策費
地域コミュニティ紙等発行事業	314	補助金 314	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域内の活動内容・事業実績を地域住民にPRする為発行する。	本年度も3回発行し区域内全戸に配布する事により当協議会の活動のPRと理解を求めた。	当協議会活動の理解の一助になった。	地域の皆さんに解かり易く、親しんでもらえるコミュニティー紙となる様努力する				大きな写真を配し、読みやすい紙面となっている。さらなる紙面充実を期待する。	地域分権・協働課 自治振興費
地域行事等活動推進事業	130	補助金 130	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行う。	地域行事を主催する団体(石橋まつり実行委員会)に活動推進の為補助する。	地域行事への補助金として有効利用した。	池田市全域の行事でもあり且つ近隣の市民にも広く楽しみ、親しまれる行事となっている。	整備・安全対策につき万全な体制を求めている。				事業概要に基づき、適正に予算執行されている。	観光・ふれあい課 自治振興費
石橋駅前アーケード看板維持管理事業	30	補助金 30	石橋駅前に設置したアーケード看板に常時照明をつけることにより駅利用者等の視認性を高める。	石橋駅前アーケード看板の電気代	アーケード看板の電気代	駅前利用者の案内に効果がある。	継続				駅利用者等のアーケード看板の視認性の向上に効果が出ている。	地域活性課 自治振興費
交通安全対策事業	88	補助金 88	西国街道への車、自転車、歩行者に注意喚起看板を、設置し通行の安全を目指す。	地区内旧西国街道と交叉する地点(3ヶ所)の安全が確保されていない。	上記3地点に「とび出し坊や」等の看板を設置し通行の安全を目指す。	運転手、歩行者等相互に安全に気を付ける事が出来る。	維持・継続	自動車運転者に対する注意喚起となり、歩行者の安全につながった。	交通・総務課 自治振興費			
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上に努める。	校区主催の市民レクリエーション大会の運営費の一部として補助する。	市民レクリエーション大会運営補助金の一部として有効に活用された。	地域住民の積極的な参加を得て、健康と交流の場とする事が出来た。	事業の継続と「安全運営」に留意する。	事業の実施により、地域スポーツの振興を図ることが出来た。	生涯学習推進課 社会体育振興費			
計	7,561		事業提案限度額 7,651千円	次年度繰越金額 90千円								



地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

神田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目（目）
		説明									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
地域内会館設備改修事業（神田会館）	4,666	修繕料 4,666	神田会館1階、2階トイレを和式から洋式に改修し、2階に男女別ブースを設置する。	1階・2階とも和式トイレで男女共用であった。	トイレを1階・2階とも洋式に改修、2階については男女別ブースを設置した。	利用者からは、利用しやすくなったとの声大きい。	他の会館についても改修の必要がある。改修対象会館・改修時期等検討が必要。				地域分権・協働課 共同利用施設管理費
地域掲示板設置事業	773	修繕料 773	老朽化した地域自治会の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	過去に民間事業者が設置した掲示板を使用していたが、老朽化等もあり使えない状態が続いていた。	ガラス扉付の掲示板を設置した。25年度に追加し、27年度に追加設置した。	雨水にも濡れなくなり、校区内各種団体にも活用されている。	未設置箇所を調査し設置することが必要。				地域分権・協働課 自治振興費
街路灯強化事業	38	電気使用料 38	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、設置した街路灯の維持管理を行う。	街路灯不足・照度不足が多く指摘されていた。（放火事件発生を受けた自主防災会・消防団による夜間パトロールで指摘）	20年度に町会・自治会から要望のあったものを中心に、街路灯新設・照度アップを実施、校区内の夜間が明るくなった。27年度は新設なし。維持費のみ発生	校区内の夜間が明るくなったことにより、放火等への牽制効果が出ていると思われる。	町会・自治会組織の無い地域の街路灯強化が必要。継続して街路灯設置要望を受け付けるようPRも必要。農地隣接の場所等に設置する場合は、高さ・向き等の調整が必要。私有地に設置の場合地主の承諾書が必要となったが、地主をどのように調査するか検討が必要。			道路課 交通対策費	
AED管理事業	930	器具費 930	地域内の各コンビニに設置し、突然の疾病や事故に対処するため、住民には救命講習の受講を呼びかけ方に備える。	小学校等には市の事業としてAEDが設置されていたが、24時間対応が無理であった。	コンビニ2か所・早苗の森会館の3か所に24時間対応可能なAEDが設置できた。	コミュニティ広報誌にも設置のPRをし、住民に24時間対応可能ということを周知できた。	他の会館に設置が必要か検討する必要がある。				健康増進課 保健衛生総務費
地域行事等備品整備事業	626	器具費 626	地域で開催される行事に使用する音響設備を整備する。	神田小学校校庭で実施する運動会・盆踊り等の音響について、周辺住民からの苦情がでてきた。	スピーカー、マイク等音響設備を購入設置。27年度は、持ち運び・維持管理のため音響設備の保管機器を購入。	地域行事での音響苦情がなくなった。	特になし。				生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	530	補助金 530	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	事務費予算の範囲内で年1回発行。（白黒印刷）	カラー刷りの広報誌を、年3回地域内全戸配布できた。（22年度以降継続）	各種地域内団体の活動紹介をとりあげることができ、回数もふえたので地域への活動内容のPRができた。	新規協議会メンバー・安全パトロールボランティアを継続して広報紙で募集を続けることが必要。				地域分権・協働課 自治振興費
神田地域コミュニティ広報事業	850	補助金 850	神田地域コミュニティ推進協議会の活動内容や他団体、神田の行事、歴史、文化をカレンダーにし、地域のコミュニティ意識の高揚を図る。	年3回の広報誌が唯一の広報手段であった。	神田地域コミュニティの活動内容や、神田の自然・行事・文化等の写真を使ったカレンダーを作成し、全戸配布した。	神田地域内の写真等を通じて、神田地域のコミュニティ意識の高揚がはかれた。	地域行事・自然等の写真を広く地域住民に公募し、コミュニティ意識の更なる高揚を図ることの検討が必要。				地域分権・協働課 自治振興費
安全パトロール実施事業	70	補助金 70	地域の安全・安心の向上のため、パトロール隊が電動自転車パトロールを行う。	P.T.Aによる登校時の見守り活動は通学路を中心に実施されていたが、下校時を含め校区全体の安全パトロール体制がなかった。H20年度からパトロールを開始することになった。	電動自転車による安全パトロール体制ができ、ボランティアを中心に下校時の校区内安全パトロールが実施された。（平成21年1月以降）平成26年度につき、継続実施できた。	安全パトロールによる直接の目につく効果はないが、地域住民に少しずつパトロール実施が認識されてきて、防犯意識の向上に役立っている。また、PRのためパトロール中の肩掛け標も新設し効果をあげている。	ボランティア人員の確保・増員が必要。				危機管理課 自治振興費
地域行事等活動促進事業	200	補助金 200	地域で開催される盆踊り等の行事を支援し、コミュニティ意識の高揚を図る。	神田小学校校区盆踊り大会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、出店等の収益で予算不足をカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。26年度は二日間とも雨天で盆踊りが実施できなかったが、27年度は天候にも恵まれ2日とも実施できた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。				観光・ふれあい課 自治振興費
キッズランド支援事業	150	補助金 150	キッズランド用品を充実させる。事業内容の拡充と参加者の増加を図る。	キッズランドのパソコン教室用備品が不足し、十分な活動ができなかった。	パソコン教室として必要なトナー、用紙類を支援することにした。	パソコン教室事業の充実及び参加者の増加が図れた。	毎年、備品購入必要金額の検証が必要。				教育センター 自治振興費
神田地域花いっぱい運動支援事業	60	補助金 60	地域と学校と一緒に花を育て緑化を進め笑顔のあふれる地域を目指す。	地域内の公園には花が少なく、手入れも不十分であった。	公園3か所に花壇を設置、定期的に花の入れ替え・水やり等ができるようになった。（神田花の会メンバーが対応）	常にきれいな花がみれるようになって利用者から好評を博している。	他の公園他花壇など必要な場所がないか検討が必要。				環境をまもる課 自治振興費
神田フェスタ開催事業	100	補助金 100	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場として、フェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	地域住民の交流・ふれあいの場としては、年1回の盆踊り・運動会のみであった。	新たに年3回の神田フェスタを開催した。（オカリナ演奏・素人落語会・津軽三味線）	回を追うごとに参加者も多くなり、次回への期待の声が多くなってきた。	参加者の増加・高齢者が多いということで開催場所の設定がむつかしくなってきた。（神田地区中心部にある民間設備の利用も検討）				観光・ふれあい課 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	神田小学校校区住民運動会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、予算不足を盆踊り収益等でカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。				生涯学習推進課 社会体育振興費
計	9,293		事業提案限度額 15,146千円	次年度繰越金額 5,853千円				各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	新規に作成された地域の「カレンダー」は、他地域からの問合せを多く、コミュニティ意識の向上のみならず、協議会の広報においても大きく寄与したものと評価する。今後、拠点づくりに関しては、市と連携を図りながら考えてまいりたい。		

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
		説明									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									地域分権・協働課 自治振興費
街路灯強化事業	38	電気使用料 28 修繕料 10	細河地区の防犯灯が設置されていない地域に設置したLED灯の維持管理を行う。	街路灯の維持管理を継続し、防犯に努める必要がある。	防犯灯がない地域にLED街路灯を継続して利用できた。	夜道の防犯対策に寄与している。LED電球は経済的であり、細河の植木植栽類にやさしい。	地域住民に対する調整。				道路課 交通対策費
細河コミュニティ道路整備事業	550	修繕料 500 補助金 50	伏尾台地区と協働して地域間を結ぶ散策道の整備を行い、市民の健康増進を図るとともに隣接する地域間の交流を図る。	継続している事業で舗装工事を行う。	散策する人により伏尾台と細河の交流が進む。	細河・伏尾町と伏尾台をつなぐ貴重な通路である。交通事故による国道通行止めるとき、路として利用できる。	利用者が幅広い年齢層になり、夜間照明、出入り口への警備員の配置等も必要となる。				道路課 道路維持費/ 自治振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	181	補助金 181	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	コミュニティでどんな事業を実施しているのかがわからないため、活動を知っていたき、関心を高める必要があった。	年2回（7月、1月）発行。部会毎の事業報告や親水公園・グランドゴルフ場・イベント案内・防犯情報など、分かりやすく発信し、地域に関心を持って頂けた。	地域コミュニティ活動の認識や防災の意識を高めている。また、イベントの集客に寄与した。	より充実した内容にするため、マンネリ化を防ぎ新会員の募集をしていく。				地域分権・協働課 自治振興費
細河ホームページ管理事業	105	補助金 105	細河の魅力や細河地区の取り組み状況をHPを通じ発信、HPの更新を行う。	池田市内、近隣市、国内、国外では細河の知名度はほとんどなく知名度を上げる目的・手段としてHPを開設し公開した。	毎月1回（年間）広報部員にてHP更新作業を行い出来る限り、地域の新鮮な情報の発信を行っている。	内外から事業・行事などHPを見て細河に訪れる人が増えてきている。	よりタイムリーに情報の発信を行いたい。				地域分権・協働課 自治振興費
細河ふれあい観光推進事業	200	補助金 200	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、細河PRイベントを行う。	ほそかわフェアというイベントを平成23年度より継続して開催している。細河の魅力を見直し地域の活性化を促すとともに、地元特産物をつくり、細河をPRするように計画した。	しいたけ菌入れや野菜収穫体験を通して細河の魅力を伝えることができた。今回より学校給食に大根を出荷し細河野菜のPR、ブランド化に努めた。給食では、子どもたちに好評であった。	関大生の企画で推進する。細河の魅力再発見、地域の活性化につながる行事である。	いろいろな角度から細河の活性化につながる企画を考え、実施できるよう若者や地域との協力関係の充実。学校給食に出荷にあたり、安定した供給体制の整備。				観光・ふれあい課 自治振興費
細河祭り運営事業	150	補助金 150	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため地域住民が細河祭り運営事業を総合的に行う。	地域内のコミュニケーションをより充実させるために、まつり運営を支える必要がある。	地域住民の実行委員会が主体で運営を行って、模擬店を出店し、コミュニケーションを充実させることができた。	地域及び地域外との活性とコミュニティ意識の高揚。	小学校の廃校に伴い地域での行事継続の取り組み方。				観光・ふれあい課 自治振興費
細河みどりの郷観光マップ再版事業	198	補助金 198	細河観光基本構想を基に制作した観光マップを再版し、細河地域を訪れる人たちの散策の一助とする。	阪大院、加賀教授に協力いただき平成21年以降15000部発行し地域内商店・観光案内所・各施設に配置した。観光客・配置主から大変喜ばれる、	製作後7年経過しマップ残数がわずかとなり地域内店舗・各施設等変化したため変化部分を主に修正製作した。製作にあたり地域内店舗の協力が非常に増大してきた。	年間平均2000部使用しているので3年間程度使用できる見込み。	地域観光散策マップは大変立派なものとなっているのがハイキングマップ（細河～五月山）の再版が必要。				観光・ふれあい課 自治振興費
細河地域活性推進事業	2,589	補助金 2,589	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、「みどりの郷」観光案内所の運営、散策路管理及び地域特産品の朝市販売等一連の事業を総合的に行う。	継続事業であり、事務所であるみどりの郷の運営、五月山ハイキングコースの維持管理、朝市野菜販売を通じ地域の活性を図る。	みどりの郷（火曜日は休館）は朝9時から午後4時30分まで開けております。五月山ハイキングコースの草刈り、危険木の撤去を実施。新鮮地元野菜を毎週土曜日に販売。	みどりの郷への訪問者が多く細河の知名度を高め、地域活性化に貢献。ハイキングコース利用者が多く細河の自然を市民に提供し、地域活性に寄与。朝市野菜販売等地域の活性とコミュニティの意識高揚となる。	事務所詰め等のボランティア及び出展して頂ける人の募集				地域活性課 自治振興費
細河ふれあい農園事業	200	補助金 200	細河の遊休地を活用し市民に開放することにより、細河地域の活性化を図るとともに、農作物を通じて世代間の交流を促進し、また、市民が土に触れる喜びや癒しの場を提供する。	農園の草刈などの維持管理が必要である。また、新規農園の拡大を検討している。	畑に植えてある植木を活用し自然の中でオーナーによる果樹の摘み取りをする。また、新規農園を整備し、拡大できた。	遊休農地の活用により地域の活性化を図れる。自然の中で植木や果樹との触れあう機会や地域外の人との交流が図れる。	トイレ、駐車場等利用者のマナーの向上。植木や果樹の剪定講座等勉強会の充実。				地域活性課 自治振興費
細河の自然を守る事業	1,119	補助金 1,119	ホタルの育成事業の実施、里山の竹や剪定枝の炭焼き活動及び剪定枝リサイクルの調査研究を行う。	蛍の飛ぶ環境が出来上がっているが、維持管理が必要。里山保全活動を継続しているが、効率よく作業をできないか検討した。	蛍が飛ぶ姿を確認できた。地元住民に好評であった。里山保全活動では軽トラックをリースし、間伐した木材を運搬し、しいたけの原木と炭、薪に利用している。	蛍の飛ぶ豊かな自然環境と竹林や雑木林の間伐による里山の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。	保全エリアが広いので会員以外のボランティア募集方法の検討。多額の予算が必要となる。				環境をまもる課 自治振興費
余野川堤防八重桜植樹事業	100	補助金 100	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、余野川堤防に八重桜を植樹する。	平成25年度より継続しており、よりたくさんの八重桜を植樹して景観美化につなげたい。	計画のとおり植樹できた。今後も充実させて景観美化につなげたい。	自然と地場産業である植木を活用し、細河の景観の美化。	河川管理者である大阪府担当部署の理解を求める。				環境をまもる課 自治振興費
細河中学校花いっぱい運動支援事業	25	補助金 25	地域と学校と一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を伏尾台地区とともに行う。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	地域の特別養護老人ホーム等公的施設の美化。	配った花の管理方法の確立。				環境をまもる課 自治振興費
細河高齢者等配食サービス事業	2,300	補助金 2,300	配食を必要とする高齢者等に弁当宅配のサービスを引き続き実施する。同時に、訪問、声かけを行い、高齢者の見守りを行う。	継続事業であり、高齢者の声かけや子育て支援を行う。	安価で美味しく好評のため、計画より300食多くなった。	細河地区は高齢者比率35%で毎年上がる中で、見守り、声かけの実践で安心しておいしい弁当を食べてもらっている。子育てに大変な妊婦さんにも提供し、子育て支援をする。	配達業者の人材を探している。希望者が年々増える中、協議会予算の配食に占める率が増額し、他の事業に支障をきたす。				高齢・福祉総務課 自治振興費

各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。

NPOと協働しコミュニティビジネスを展開するなど、先進的に活動いただいたものと評価。その分、補助金の適正な管理、執行については、十分に留意されたい。



地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

細河地域子ども会育成事業	300	補助金 300	校区全体で子ども会の育成を行い、協議会と子ども会が協働して、子どもとのふれあいの場を維持していく。	平成24年度より継続して子ども会活動の支援をしており、子どもが元気に育成する場を提供している。	7月にプール場、3月にはスケートリンクへ送迎し、子どもの育成に寄与することができた。	子ども会活動の充実を図り地域と子どもや親同士との触れ合いを深める。	細河小学校の廃校に伴い地域子ども会とのかかわり。		プールやスケートといった子どもが楽しく元気に活動できる場を提供することで、地域の子ども同士とのつながりが深まり、校区の子ども会活動の充実及び地域と子どもとの触れ合いにつながった。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
計	8,155		事業提案限度額 8,155千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（伏尾台地区）

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	125	電気使用料 85 設備保守点検委託料 40	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	H22年度に伏尾台への出入口道路である国道側と川西側の2か所に通過車両を撮影できる防犯カメラを設置した。H24年度に第2コミセン南側と細河中学校の南側交差点に防犯カメラを設置した。H25年度、北高校の周回路北側の中央付近から西方向に向けて1台、同周回路の南東のT字交差点に東西方向に向けて2台の防犯カメラを設置した。H26年度、北高校の周回路北側の中央付近から東方向に向けて1台の防犯カメラを設置し、旧伏小付近を撮影可能にした。伏尾台への出入口道路である国道側と川西側の2か所に設けたカメラ支柱を利用して夜間撮影が強化されたカメラを増設した。	14台の防犯カメラの設置によって、地域に出入りする車両並びに歩行者をもれなく撮影し得る状況となった。また、既設カメラとレコーダーはメンテナンスされた。	警察の捜査にも協力でき、同時実施の安全パトロール事業での青パトロール車の巡回、地域内の防災防犯委員会並びに自治会の防犯活動と相まって、毎年空き巣事件“0”を更新していたが、侵入盗が1件発生した。また、認知症の方が行方不明になったが、伏尾台から出ていない記録が確認でき、無事発見できた。	14台設置したので、地域内に防犯カメラの増設を行うべき特段の理由はなくなり、今後は維持管理が主になるが、捜査の記録開示の要請に備える体制の維持と、経年変化により故障するカメラが今後増えることへの対応など管理業務を強化する必要がある。			地域の危険箇所に防犯カメラを設置することにより、犯罪の発生を未然に防ぐ効果を期待する。また継続的経費について理解し、設置場所について十分の議論・調整の上、提案を期待する。	危機管理課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業	865	建物借上料 500 補助金 365	地域住民への協議会活動及び地域分権のPRを目的として協議会活動拠点の運営を行う。	コミュニティ推進協議会の活動拠点として事務所設置を行った。伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。現状の屋根上を被覆する簡易屋根を設けて雨漏りを防ぎ、光ケーブルを引きコピー・ファックス複合機を導入でき、印刷用紙や書類を保管可能になった。協議会の役員会議を定期的に開催し、資料回覧物等の印刷業務を行っている。また、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。	本年度は、10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行うことになった。それに伴い、プラザ事務所と称し、光ケーブルを引きコピー・ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。さらに、協議会の住所地である従前の事務所を西公園事務所と称することにし従前通りの使用を行った。	伏尾台地域に入っすぐの目立つ立地条件のもと、webでのグーグル地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っている。コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに社協の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より翌年3月31日までの実績で3200名を超えた。	西公園事務所は、屋根の改修により、事務所機能が復活し、利用回数が増大した結果、元来老朽化した床の損傷が進行したが、協議会事務所機能をプラザ事務所に移したことに伴い、しばらくは現状を維持できる。西公園事務所には、遊歩道側に独立したトイレが設置されているが、これを整備して遊歩道側に解放することで、散歩中の人や隣接する西公園を訪れる地域の方に利用してもらえるようになる。プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後はまちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。			コミプラの開設により、地域の新たな拠点ができたものと、また利用者数も大変順調に推移しており、地域活性化に大きく寄与していると評価する。今後、維持継続できうる体制づくりは急務であり、期待するところ。	地域分権・協働課 自治振興費
子育て支援環境整備事業	980	建物借上料 500 補助金 480	幼児をもつ母親の子育て環境改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、スペースの確保と用品等の拡充を図る。	平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。平成26年度は、会員67組（134人）、ボランティア会員（12名）で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組（延べ242人）の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回（延べ246名）行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組（延べ46人）の参加があった。	会員登録は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。半年間、母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。	「ほっとルームフレンズ」で親交を深めた親子同士がお互いの家や公園に集い、グループで遠出できるようになり、子供と純粋に向き合い遊ぶ時間が持てる人間関係が築けるようになるなどの、初期目的である、密着育児で子育てストレスを溜めてしまいうことを防止できる環境を整備維持できている。特に、活動が目につきやすいプラザ内の支援ルームでの利用は、コミセンにて活動を行っていた半年間の延べ人数の8.5倍に達し、広く使いやすい専用の支援ルームを開設した効果が如実に表れた結果が得られた。	幼児や未就園児を対象に子育て支援を行ってきたが、園児や小学校低学年の子供たちの支援を要望される保護者や家族が、大変多くプラザに来所された。対応できない現状に苦慮するほどの反響を真摯に考えなければならぬ。新たな未就園児の親子への広報活動並びに新規登録等の事務処理、さらに就園児となった親子らとの交流、相談で訪れる母親への支援等を考えると、支援者の当番制を確立するため、一部有償ボランティア活動を認めてもらえる制度が必要と考える。			子育て世帯のコミュニケーションの場として備品等の環境整備等を実施。親子の交流や悩み相談、季節ごとの行事を実施し、親子が居心地よく過ごせる場所として地域に定着している。伏尾台コミュニティプラザでの新規開設により利用者が大幅に増加している。利用者増に伴う支援体制の構築と活動の充実を期待している。	地域分権・協働課/ 子育て支援課 自治振興費
コミュニティサロン設置事業	650	建物借上料 500 補助金 150	地域の人々の情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを伏尾台コミュニティプラザに設置する。	伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する処、待ち合わせや談笑する処、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。	伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に住民の誰もが立ち寄り、子供と大人とがコミュニケーションを図れる「フリーサロン」並びに子育て支援ルーム、まちの情報センター、協議会事務所を設けた。このプラザは、平成27年10月3日に開設し、来訪者には名簿に記名をお願いしており、10月3日より翌年3月31日までの実績で3200名を超えました。	フリーサロンの利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の裁縫などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、小学校、中学校の宿題をグループで行う生徒、談笑するグループ、読書、昼食をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分けする方、食事をする高校生などまさにフリーサロンとして利用されている。	さらに利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画を行うなどの活動が必要であると考える。また、ボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後はまちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。			10月の開設以来、地域の活性化に寄与しているものと認識。今後さらに地域の方たちの集う場としての機能を強化し、充実を図ることを期待する。	地域分権・協働課 自治振興費
ボランティアセンター設置事業	650	建物借上料 500 補助金 150	地域のボランティア活動の供給者・需要者に対して、情報発信や斡旋を調整するボランティアセンターを伏尾台コミュニティプラザに設置する。	伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。	伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に、有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。	プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より翌年3月31日までの実績で3200名を超えた。フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報を「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミプラ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」のカテゴリーに分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ポスターの掲示を願ひ出られるなど多くのグループに利用されている。	当初予定していたボランティア活動に関する情報の収集、提供を行うスタッフの、事業の効果の欄で述べたフリーサロンのまちの情報センターとして機能させることで手が一杯となり、十分に活動できていない。しかし、ボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後はボランティア活動のみでなく広範囲の情報センターとして機能させたい。			10月の開設以来、地域の活性化に寄与しているものと認識。今後さらに情報センターとしての機能を強化し、ボランティア支援の役割についても充実していくことを期待する。	地域分権・協働課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

<p>伏尾台コミュニティプラザ設置事業</p>	<p>8,000</p>	<p>修繕料 補助金</p>	<p>7,500 500</p>	<p>伏尾台にコミュニティサロン、ボランティアセンター、子育て支援サロン、事務所の事業を行うための設備整備を行いコミュニティプラザを開設する。</p>	<p>伏尾台には、2つのコミュニティセンターがあるが、子育て中の母子が自由に利用できる常設の子育て支援ルームや、誰もが立ち寄れるフリーサロンの設置がなかった。</p>	<p>伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に、フリーサロン、まちの情報センター、子育て支援ルーム、協議会事務所の4事業を実施するスペースを設け、前記各事業を行うのに必要な什器、備品などを購入、整備した。フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報を種々掲示している。フリーサロン内には、12のテーブルと40の椅子を配置して多くの方を収容でき、さらにイベントなどにも種々活用できるよう40脚の折りたたみ椅子、PA設備も備えた。落語で使用する高座も組み立て式で用意した。プラザ内の掃除を効率よく行えるよう掃除具を整えた。プラザを紹介するためのリーフレットを作成し常備した。</p>	<p>子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より翌年3月31日までの実績で3200名を超えた。子育て支援ルームのみの利用者は、約1450名であり、フリーサロンへは、約1750名が来訪された。また、地域活性化事業として開設記念コンサートや落語の会を本プラザで実施することができた。</p>	<p>さらに利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画を行うなどの活動が必要であるとする。</p>	<p>地域の思いのつまったコミュニティプラザが完成したものと認識。今後地域の中心施設として、まちの活性化に大きく寄与する施設となるよう、適切な管理運営のもと、さらなる発展に期待したい。</p>	<p>地域分権・協働課 自治振興費</p>
<p>伏尾台ふれあい推進事業</p>	<p>600</p>	<p>修繕料</p>	<p>600</p>	<p>地域の公共用地等を活用し、住民の憩いの場づくりをし、地域のコミュニティの高揚と地域の活性化を図る。</p>	<p>伏尾台1丁目と3丁目の境に南北方向に設けられた遊歩道は、伏尾台を一周するバス周回道路を南北に繋ぐとともに、北は1丁目三角公園と南の第2コミセン及び西公園をつなぐ遊歩道でもある。ここを散策される人は多く、特に坂道であるが健康維持のために利用される方が多いため、坂道の途中で腰を下ろすところがあれば散策が楽しみになるとの声が多数、自治会、協議会へもたらされた。</p>	<p>伏尾台1丁目33-17東側、3丁目3-1西側の遊歩道、伏尾台1丁目36-1東側、3丁目1-19西側の遊歩道にそれぞれベンチ1基を設置したところ、朝夕、散策される人が腰かけて休息されている。</p>	<p>利用されている方たちは、健康維持のための散策であると答えられており、やはり坂道であるため息が切れることがあったが、途中で休むことができ、その後また歩き続けることができるので、健康に良いとのことであった。</p>	<p>今後も利用を続けてもらうには、ベンチ座面の定期的な清掃が必要であるため、定期的な点検日を設定する必要がある。</p>	<p>遊歩道のベンチ設置により、利便性が向上したものと認識。今後継続して利用されるよう、地域による適正な管理が必要。</p>	<p>地域分権・協働課 自治振興費</p>
<p>公園施設改修事業</p>	<p>300</p>	<p>修繕料</p>	<p>300</p>	<p>公園施設を改修及び充実するとともに、利用者の利便性及び、利用率の向上を図る。</p>	<p>伏尾台の北中央公園は、府営団地ならびにA団地、マンションの南側に位置するため、子供達が大好きな公園である。子供達の保護者から、公園で遊ぶ子供達が夢になり帰宅時間が遅くなる傾向にあることから、帰宅時間を確認できるように公園内に時計を設置して欲しい旨の要望が多数寄せられた。</p>	<p>伏尾台北中央公園の南北方向の中央部で東側にある防犯灯ポールに、西向きに丸型の時計を設置した。</p>	<p>時計の設置後は、朝の青パト活動中の隊員が、登校する多くの子供たちから公園に時計があることの報告を異口同音に受けたことから、本設置が直ちに知れ渡っていることが確認された。</p>	<p>協議会内のまちなみチェック委員会では、26年度に地域全域を調査し、改善すべき箇所リストを作成したので、優先順位を付けて改善を順次提案していきたい。H26年度実施の樹木プレートの管理を定期的に行うことが必要であり、他年度に実施した整備事業の管理状況を調査する必要があるとする。</p>	<p>伏尾台北中央公園に時計を設置する事により、地域の子ども達が確実に時間を認知できる様になった。地域住民が安心して子どもを公園に送り出せる様になった。</p>	<p>みずとみどりの課 公園費</p>
<p>伏尾台コミュニティ道路整備事業</p>	<p>500</p>	<p>修繕料</p>	<p>500</p>	<p>細河地区と協働して地域間を結ぶ散策道の整備を行い、市民の健康増進を図るとともに隣接する地域間の交流を図る。</p>	<p>ほそごう学園運動場東側は久安寺の里山に隣接しており、山中にある炭焼き小屋跡まで散策できるように、伏尾台の造成時中学校運動場東脇に(1)階段道とこれに続く平坦道(約200m)が造られた。炭焼き小屋跡からは(2)急なつづら折れ道(約200m)と(3)崖沿いの直線道が道幅が狭く危険で早急に整備が必要であり、伏尾台から久安寺及びグラウンドゴルフ場へこの散策道で往来し易いように、協同で整備することになり、H23～H26年度に(3)崖沿いの直線道で幅修正及び木質舗装工事、(3)崖沿いの直線道に落下防止のために手すり兼用フェンスを土留擁壁部に立設工事、(2)急なつづら折れ道に踏面確保の土留補修工事、(2)急なつづら折れ道の一部に木質簡易舗装工事を施した。</p>	<p>本年度は、(2)急なつづら折れ道と(1)階段道とこれに続く平坦道に木質簡易舗装工事をを行った。</p>	<p>久安寺側から(3)崖沿いの直線道が幅修整、フェンス設置後は親子連れで子供でも安心して歩ける道になり、さらに(2)急なつづら折れ道、(1)階段道とこれに続く平坦道に土留補修と木質簡易舗装工事をを行ったことで極めて歩きやすく、雨天時も歩くことが容易になった。</p>	<p>今後、細河の協議会と伏尾台の協議会が10月～3月まで月交代で、落ち葉の除去清掃を行い、さらに要所に街路灯を設置することによりより安全に散策可能になると考えられる。</p>	<p>道路整備により、より安全で安心な散歩道が確保されたと考えられる。</p>	<p>道路課 道路維持費</p>
<p>地域コミュニティ紙等発行事業</p>	<p>250</p>	<p>補助金</p>	<p>250</p>	<p>地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。</p>	<p>伏尾台では、協議会の広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布作業の全てを、協議会メンバーのボランティアで実施してきた。費用は紙代等の実費のみであったが、協議会委員への負担は極めて大きかった。平成26年度の第12号広報より広報紙と共に全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発足し8年を経過した伏尾台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報を全戸配布した。さらに伏尾台地域活性化事業で行う年3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を協議会委員の手配りで実施した。</p>	<p>定期広報紙を2回伏尾台地域の全戸に配布した。9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏尾台コミュニティプラザの様子を表紙にし、平成27年度の実施事業を紹介した広報を全戸配布した。平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙に、平成28年度で実施予定の事業を紹介した広報を全戸配布した。新設の伏尾台コミュニティプラザの機能などを紹介する三つ折りのリーフレットを用意し、来館者に配布するほか、プラザの利用を促進する広報活動を行った。伏尾台地域活性化事業で行う年3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を協議会委員の手配りで実施した。</p>	<p>年間2回の全戸配布の広報による協議会入会、アンケート回収や安全パトロール隊員の応募などに極めて有効であった。「山びこフェスタ開催案内」のポスター、回覧チラシにより、イベントが有意義に実施された。</p>	<p>委員の負担を減らすため「山びこフェスタ開催案内」をe-mailなどで広報できるように考えていきたい。</p>	<p>大きな文字や写真を用い、またアンケートを載せるなど、読みやすい紙面となっている。今後より一層の創意工夫ある紙面づくりに期待する。</p>	<p>地域分権・協働課 自治振興費</p>
<p>安全パトロール実施事業</p>	<p>550</p>	<p>補助金</p>	<p>550</p>	<p>地域安全パトロールを実施し、地区内の安全・安心の向上を図る。</p>	<p>実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時間に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。H26年度は、登校予定日、小学校の曜日ごと、学年ごとの下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。</p>	<p>H27年度は、小中一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。朝の登校時に定立立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。</p>	<p>パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がり、防犯カメラ事業との相乗効果も有り、毎年空き巣犯罪"0"を更新できていたが、侵入盗事件が1件発生した。酷暑の日、閉校している小学校グラウンドで水道管が破裂しているのをパトロール中に発見し、市役所の担当部局へ連絡を入れることができた。</p>	<p>毎年10名前後の隊員の入れ替わりがあるが、乗務希望の曜日と時間が重複することが多く、さらに夕刻以降の乗務希望者が減少して、運行スケジュール立案が事務担当者の大きな負担である。実施者証の更新講習会の開催手配と、新入隊員への受講手配、保険加入申込み等が増加し事務担当者の負担が増大した。公園でゴミが飛散している情報がパトロール中に寄せられるなど未だに住民には池田市職員がパトロールしていると思っている方がおられるようで、住民ボランティアであることの広報が必要である。</p>	<p>日々の地道な活動の成果により、小学校区内でパトロールの認知が高まるなど、犯罪抑止に繋がっている。今後パトロール活動の充実を期待する</p>	<p>危機管理課 自治振興費</p>

関係者の意見を参考にして、役員会でまとめる。

コミュニティプラザの開設により、全ての事業実施にあたり、好影響を与えているものと評価する。今度、真の地域拠点となる為には、一部の役員に負担が偏ることのないよう、地域全体で支え、より安全に散策可能になると考えられる。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成27年度執行）

防犯防災啓発事業	200	補助金	200	年末の防災訓練用発電機と巡回パトロールを啓発するための用品を購入する。地域住民の防犯・防災意識を高め、体験訓練を行う。	伏尾台防災・防犯委員会は、自治会連合会より配分される50円×1200戸の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練での費用も参加人数が300名を超え、自治会からの配分予算では厳しい状況である。平成26年度に無線機を5台導入して計7台となり、地域に4箇所ある防災備蓄倉庫の一斉点検時に連絡が極めて円滑になった。夏祭りでは、会場周辺の交通整理の際より安全に歩行者を誘導できた。	8月27日は、防災/防犯委員会が伏尾台夏祭り会場で、延べ40名にて無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。9月10日は、津波・高潮ステーションと大阪市阿倍野防災センターの見学会が実施された。11月9日は、池田市消防署で行われた普通救命講習に11名が参加した。12月7日は、伏尾台小学校にて防災総合訓練が行われ、参加者は300名に達した。12月27日、29日、30日の年末特別警戒には、延べ88名が参加した。	夏祭りでの通行止め区間の4箇所での夜間照明並びに無線連絡と相まって安全に交通整理が実施できた。津波・高潮ステーションと大阪市阿倍野防災センターの見学会が実施でき、参加者全員に感想文を書いてもらい防災意識が高まった。総合防災訓練での必要経費を補助金で賄うことができ、300名を超える住民に7項目の訓練を受けて頂いた。第2コミセン敷地内に配置した備蓄倉庫を外へ移設してアクセスを容易にした。救急セットを備置することができた。	総合防災訓練時の引率リーダーの養成のための教育カリキュラムとして、備蓄資機材の使用訓練、見学会の開催要望があった。	地域内の防災備品を適切に配備・管理することができ、万が一の際に適切な利用されることを期待する。	危機管理課 自治振興費	
地域行事等活動促進事業	400	補助金	400	地域の夏祭り開催費用の一部を支援する。また行事を通して、住民間の交流拡大に寄与するため、子ども神輿の巡行支援を行う。	子供会活動が衰退し、2丁目自治会、北自治会では子供は大勢いるが、恒例の夏まつりで子供御輿の巡行が2丁目だけできなかった。平成25年度に軽量であるが、本御輿と同様の外観を有する子供御輿を新調する事が協議会で決定されて以来、子供会の再編を含めて活動の強化を図る方策が種々取られた。そして40周年記念となる夏祭りが平成26年8月23日に開催され、新調の子供御輿が大活躍した。育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、27年度は2丁目と3丁目の子供会が合併して子供会が無かった2丁目北自治会の子供たちが2・3丁目子供会に入会する強化策が取られることになった。しかし、第40回記念の夏祭りを開催するも自治会活動のうち最も負担が大きいことから、平成26年度末をもって自治会連合会が解散となり、平成27年度の夏祭りが自治会主催で行われないことになった。	本年度は、住民有志による第41回夏祭り実行委員会が立ち上げられて夏祭りが平成27年8月22日に開催された。当日午前8時より12時30分まで、2丁目北自治会集会所前より子供神輿が巡行を始め、1丁目北公園で本御輿と合流して1丁目を巡行し、西公園で子供御輿が4・5丁目へ引き渡され、次いで3丁目を巡行した。午後からの夏まつり第二弾としてのゲーム大会を終えて、夕刻の学生等による音楽会を終了して、盆踊りを主とする夏祭りが盛大に開催され、4月にほそごう学園が開校したことに伴い、細河地区の子供たちが多く参加し、ここ数年で一番の参加者があった。多くの参加者が惜しむ中、9時30分に終了した。	育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、協議会の委員としても子供会の新旧の校区長が毎年加入していただき、さらに複数年度にわたり活動に参加してもらっている。	活動を活性化した子供会では、新調の子供御輿の巡行を望んでいるので、毎年夏祭りが開催されるようにしたい。住民有志による夏祭り実行委員会には、さらに多くの住民の参加が期待できる新しい形態の夏祭りを企画していただきたい。	事業概要に基づき、適正に予算執行されている。	観光・ふれあい課 自治振興費	
伏尾台地区活性化事業	300	補助金	300	地域住民を対象としたミニコンサートなどのイベントを実施し地域の活性化を図る。	毎年5月と11月の野外コンサート、3月の落語会と年3回開催で既に13回開催してきた。季節を感じられるイベントとして地域に「ふしおだい山びこフェスタ」と認知され定着している。	5月16日、音楽コンサートを地区福祉委員会のフリーマーケットと共催の形で、伏尾台センター「夢の広場」公園で行った。10月3日、コミュニティプラザのオープン記念として、午後1時より、プラザ内で、弦楽四重奏楽団によるコンサートを開いた。扉を開放して、野外にも椅子を配置して楽しんでもらった。11月15日、午後2時より、ほそごう学園体育館にて、地域と学校を結ぶ文化祭のプログラムとして、ミニオーケストラ楽団によるコンサートを開いた。平成28年2月20日、午後1時30分より落語の会をコミュニティプラザで開催した。	開催結果を参加人数(0.5時間毎の最大ピーク人数、述べ人数でない)で評価する。夢の広場に立ち寄り20~30分聞いている方、最初から最後まで聞いている方等多くの人に楽しませている。5月16日「ジャズコンサート」1.5時間 70~150人 10月3日「弦楽四重奏」1.5時間 70~100人 11月15日「ミニオーケストラコンサート」1.5時間 60~120人 2月20日フリーサロンで開催「落語の会」100人	例年通り、参加者は異口同音に伏尾台で音楽や落語が楽しめて良かったと言い、継続要望が多かったが、ボランティアスタッフを集めるも応募が全くない。地域住民の憩い並びに交流を深めることができ、定着して楽しみにされている方が増加するが、今後開催の内容、方法を吟味検討しなければならない。	事業概要に基づき、適正に予算執行されている。	観光・ふれあい課 自治振興費	
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	25	補助金	25	地域と学校と一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を細河地区とともに行う。	地区福祉委員会並びに細河地域コミュニティ推進協議会と共同して、細郷中学校が行う地域花いっぱい運動(中学生がパンジーなどを育て、大きくなった苗を地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行う)を支援していた。	本年度もパンジー、ピオラのプラグ苗1000株を育成用土、肥料等を用いて予定どおり育成することができた。育成したパンジー、ピオラを、中学生が地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行うことができた。	文字どおりほそごう学園地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、中学生が行う学校、保育所、老人ホームなどへ花の贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。	今後は、ほそごう学園とともにさらに地域全体の活動としての意義が高まるため、継続して活動していきたい。	学生育てた花を地域に配布することで、地域緑化だけでなく地域交流にも期待する。	環境をまもる課 自治振興費	
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金	200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	伏尾台校区住民がスポーツに親しみ気軽に参加できる機会を設け、幼児から高齢者まで楽しみ交流を深めて地域の活性化を図る目的で、伏尾台校区市民レクリエーション大会実行委員会を組織し、自治会連合会の協賛のもと、伏尾台大運動会を行ってきた。各自治会の組織率の低下にともない、自治会からの参加者並びに協賛金も大きく低下している。主に夏祭りの開催に要する労力が大いなる負担として、組織率の大幅な低下を理由に自治会連合会を脱会する自治会が出ることにより、平成26年度末で自治会連合会が解散となった。これにより平成27年度の自治会連合会による参加者集めができなくなるため、運動会の中止が懸念された。	平成27年度の夏祭りが住民有志による実行委員会形式で開催されることが4月に決定されることに伴い、運動会開催に自治会が参画することが決定された。自治会協賛金の低下を補う形の補助金として、必要な運営費用を賄うことが可能になり、参加者の高齢化と運動量の減量化を求める意見を考慮して、プログラムを一部変更した結果、多くの住民が参加して大いに楽しめるスポーツ大会を開催できた。	実行委員会並びに自治会連合会の役員、スタッフとともに運営が積極的に行われ、又、各自治会の参加者募集の努力の結果、例年同様に参加者があり、盛況な運動会であった。	少子高齢化が加速する伏尾台では、幼児から高齢者までスポーツを楽しむ交流を深めて地域の活性化を図る初期目的に立ち返り、参加人数を考慮した紅白対抗形式など、従前とは異なる別形態の運動会を模索していく必要がある。	事業の実施により、地域スポーツの振興を図ることが出来た。	生涯学習推進課 社会体育振興費	
計	14,695			事業提案限度額	14,695千円						
合計	87,594千円			事業提案限度額	104,157千円	次年度繰越金額	16,563千円				